

C2  
1113  
57-03

岐阜縣布達類纂第二編

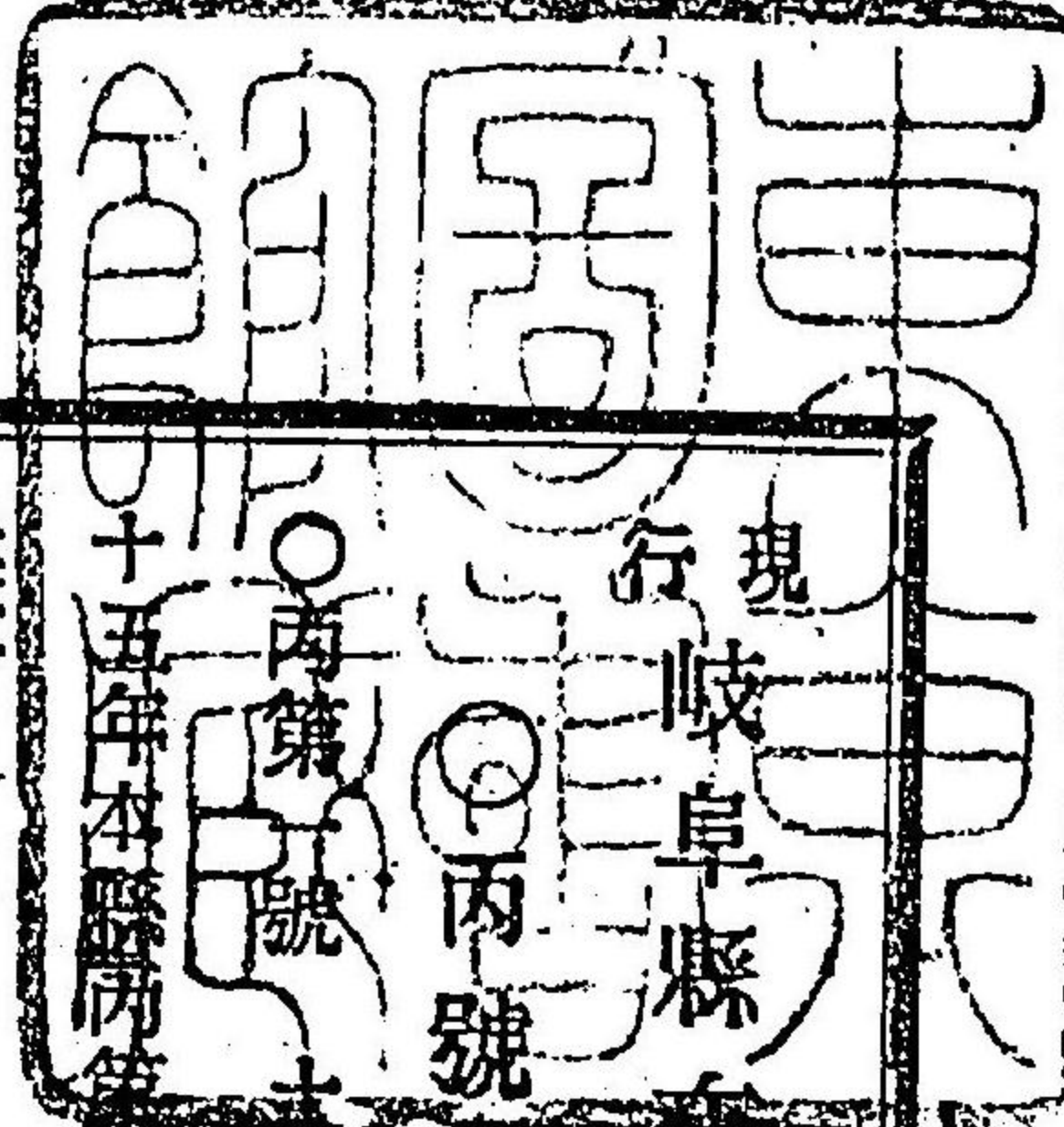
十七年  
丙號  
戊號  
無號

五

東京圖書館  
新書門  
部類函架號冊



02  
1113  
57-03



現岐阜縣布達類纂第二編

丙號之部

丙號 十七年一月十二日 郡役所 戶長役場 學務委員

十五年前縣開第廿三號通本縣小學校教員免許狀授與規則中左ノ通改正候條此旨相達  
候事

國十五年丙二十三號ハ第  
五卷九類三十三ニアリ

一第九條中學力檢定願書式學務委員姓名印ヲ削リ左ノ與書ヲ加フ  
前書本人品行取糺候處方正ノ者ニ候條與印候也

學務委員姓名印

一第十條中教員免許狀印章岐阜縣學務課印ヲ岐阜縣印ニ改ム  
一第十一條左ノ通改ム

學力檢定ノ節品行ハ學務課員之ヲ檢シ其學力ハ華陽學校教員之ヲ檢定スル者トス

十七年丙號

〇一



○丙第二號 十七年一月十七日 郡役所 戶長役場  
會テ海軍服役ノ者ニシテ現今各管下人民所有ノ船舶ニ乘組居ル者有之候ハ其本籍姓名取調早々可届出旨海軍省ヨリ達相成候條右該當者有之候ハ速ニ郡役所へ可届出郡役所於テハ其都度進達致スヘシ此旨相達候事(十七年丙六十)四號ヲ以廢止但自今乘組ム者ハ三ヶ月纏メニ取調本文同様届出ヘシ

○丙第三號 十七年一月十八日 郡役所 戶長役場

約束郵便物ノ内第三種第四種ノ重量及寸尺ハ郵便條例ニ依ルハ勿論ニ候處往々重量及大サ共制限外ノモノ差出候向モ有之取扱上差支候間第三種第四種ハ郵便條例第三條ニ依リ且第一種郵便物モ可成三百目迄ニ止メ不得止分ハ分割シ差出候様驛遞局ヨリ照會有之候條此旨相達候事

○丙第四號 十七年一月十九日 郡役所 戶長役場 學務委員

學務委員事務取扱所ノ儀別段取設無之候處自今學區内便宜ノ地ニ相定其位置可届出

此旨相達候事

但便宜ノ戶長役場ニ併置又ハ自宅ヲ相充候モ不苦候事

○丙第五號 十七年一月十九日 飛驒國ヲ除ク 郡役所 戶長役場 學務委員

各學區内ノ小學校是迄經濟ヲ各別ニ致居候向多分ニ候處右ハ學區ノ精神ニ相戻リ教育上不利ナルノミナラス資力相分レ候ヲハ理財上ニモ不可然候條今後每學區其經濟ヲ一途ニシ學務委員ニ於テ總テ仕拂ノ取扱ヲナスヘシ此旨相達候事

但本年七月一日ヨリ實施可致候尤事情アリテ當分各費目悉皆共通難相成節ハ其以前方法ヲ具シテ可伺出儀ト可相心得候事

○丙第六號 十七年一月廿二日 郡役所 戶長役場

農務上必要ノ儀有之ニ付舊藩ニ於テ鳥獸獵ニ關セン制度并藩内郡村ノ申合慣行等ニ於テ右ニ關セン事項舊代官山林方等相勤候者ノ覺書若シハ記憶ニ存スル者及ヒ村方古老ノ口碑ニ存スル者ニ至ル迄左記ノ通毎項詳細取調差出スヘキ旨農商務省ヨリ達



相成候ニ付戸長於テ右精密取調來二月廿八日限所轄郡役所へ差出シ郡役所於テハ該書類取纏三月十日限差出スヘシ此旨相達候事

但古書類現存候ハ、総テ謄寫ノ上還付候條悉皆取纏本文調書ト同時ニ差出スヘシ  
一舊藩々ニ於テ鳥獸獵ニ關シテ設ケタル制度又ハ一時限ノ達示禁令等ノ有無

其目

- 一鳥獸獵ハ士民一般隨意ニ爲スコヲ得シヤ又ハ何々ノ身分若クハ白痴風癩幼者ノ類ニ限リ之ヲ禁止セシコアリヤ
- 一凡ソ鳥獸獵ヲ爲ス者及沼湖水澤ニ於テ鳥獸獵請負ノ許可ヲ得シ者ニハ鑑札ノ類ヲ下渡シ幾分ノ税金又ハ冥加金等ヲ取立タルコアリヤ果シテ然ラハ其地ノ面積并一ケ年ノ金額何如
- 一鳥獸獵ヲ爲ス者ハ何人ノ所有地内ト雖モ勝手ニ立入其地内ノ鳥獸ヲ獵獲スルコヲ得シヤ又門戸牆柵等アル地ト普通ノ田圃森林トノ間ニ於テ自ラ區別アリシヤ

一藩屬山林中タリトモ勝手ニ立入獵獲スルコヲ得シヤ又ハ税納冥加納其他制限アリシヤ

一果シテ勝手ニ立入獵獲スルコヲ得ルトキハ若シ地主ニテ樹木葎類等ヲ蹂躪サルハ害ス虞リ其立入ヲ拒マントスルニハ何様ノ手續ニ由リタルヤ

一自己ノ所有地内ニ棲息飛走スル鳥獸ヲ其地主自ラ獵獲スルト他人ノ獵獲スルトノ間ニ權利ノ差別アリシヤ

一禁獵ノ場所ハ何々ノ地ナルヤ又禁獵地タルヲ公衆ニ明示スルニハ何々ノ方ニ由リシヤ

一獵具ハ何々ヲ許シ何々ヲ禁セシヤ又夜中若シハ場所ヲ限リ某獵具ノ使用ヲ禁セシコアリヤ

一獵犬使用上ニ付取締方法ヲ設ケシコアリヤ

一何々ノ鳥獸ハ何々ノ理由ニヨリ一切獵獲スルコヲ禁シ又何々ノ鳥獸ハ何々ノ理



由ニヨリ時季ヲ限リ獵獲スルヲ禁スル等ノコアリシヤ又此等ノ關係ヨリシテ  
鳥獸賣買上ノ取締法等ヲ設ケタルコアリシヤ

一 田圃森林等ノ害ヲ除クカ爲メ藩ニテ定時又ハ臨時ニ鳥獸獵ヲ爲シタルコアリヤ  
一 有害鳥獸獵ヲ獵獲セシ者ニ褒賞ヲ與フル等ノコアリシヤ  
一 鳥獸獵ニ關シ罰則ヲ施行セシコアリヤ

一 甲獵者カ負傷セシメタル鳥獸ヲ乙獵者カ獲タルトキ甲乙兩者ニ於テ何レノ所有  
ト爲スヘキヤ及ヒ之ヨリ生スル權利義務ノ定等アリシヤ

一 獵者カ負傷セシメタル鳥獸他人ノ屋敷内ニ入ルカ又ハ近傍村内ニ入ル事等アリ  
此際獵者ニ非サル者カ獲タルトキハ何レノ所有ト爲スヘキヤ及ヒ之ヨリ生スル  
權利義務ノ定等アリシヤ

一 山林方役人又ハ山林番人等ニハ其職務上ニ於テ鳥獸ヲ獵獲スルコト常ニ許可シ  
アリシヤ又其獵獲セシ鳥獸ハ其者ノ所有トセシヤ將テ藩廳へ上納セシヤ又藩廳

へ上納スルニ付テハ手當金等ヲ給與セシコアリシヤ

右ノ外一郡一村限ノ申合ニ係ル例規及ヒ古來ノ慣行等前目次ニ準シ詳細取調フヘシ  
尤前目次中ニ揭示セサル者ト雖モ鳥獸獵ニ關シタル舊藩政事上ノ事項民間ノ慣習等  
ハ洩レサル様記載スルヲ要ス

○丙第七號 十七年一月廿三日 郡役所 戶長役場 學務委員

小學校々長訓導准訓導月俸及學務委員給料ノ儀自今豫算ヲ以所轄郡役所へ徵集ノ上  
更ニ夫々交付候様可取計此旨相達候事

但來七月ヨリ實施可及且學務委員ニ於テハ小學校職員月俸渡帳ヲ製シ置每半年郡  
役所ノ檢閲ヲ可受儀ト可相心得候事

○丙第八號 十七年一月廿四日

諸稅監查員提携印章紛失

○丙第九號 十七年一月廿六日



函館縣下檜山爾志郡役所公文燒失ニ付該郡役所ニ對シ照會中ノ件至急取調更ニ照會  
セシム

○丙第十號 十七年一月廿八日 郡役所 戶長役場

陸軍軍馬局調馬卒概則別冊之通陸軍省ヨリ達相成候條爲心得此旨相達候事

陸軍省達甲第四號

府 縣

陸軍々馬局調馬卒概則左之通相定候條此旨相達候事

明治十七年一月十五日

陸軍卿 大山 巖

陸軍々馬局調馬卒概則

第一條 陸軍々馬局調馬卒ハ馬匹ノ調躰訓練飼養搔櫛及ヒ器械馬具ノ淨磨其他雜役  
ニ服セシム

第二條 調馬卒ハ華士族平民中志願ノ者ニシテ檢査体格ニ合スル者ヲ採リ之ニ充テ  
騎兵生兵學ヲ修業セシメ卒業ノ後二等調馬卒ヲ命ス

第三條 其服役期限ハ二等卒ヲ命シタル日ヨリ現役七ケ年トス然レモ再服役ヲ請願

スル者ハ詮議ノ上之ヲ許スコトアリ但本條及ヒ第四條ニ當リ服役滿期ニ至ルト雖モ  
戰時若クハ事變ノ際ハ之ヲ延期スルコトアル可シ

第四條 豫備役及ヒ後備兵役ノ兵卒ニシテ調馬卒ヲラシメテ志願スル者ハ詮議ノ上  
之ヲ許シ七ケ年間服役セシム但騎砲輜重兵卒ヨリスル者ハ乘馬生兵學ヲ卒ルノ後  
二等調馬卒ヲ命スルモノトス

第五條 調馬卒中技術ニ長シ且才能アル者ハ拔擢シテ騎兵下士ニ任ヌ其服役ノ方法  
及ヒ年期等ハ陸軍下士服役規則ニ從フ

第六條 調馬卒ハ常ニ營内ニアルヘキモノト雖モ時宜ニヨリ營外ニ私宿セシムルコ  
トアル可シ

第七條 調馬卒ノ被服食料日給其他給與品ハ總テ騎兵卒ニ異ナルコトナシ

第八條 修業中ハ勿論服役期限中ハ如何ナル事故アルモ免役ヲ請願 修業中ニ在リテ  
暇歸省モ亦同シ



スルヲ許サズ然レハ卒業ノ目途ナキ者又ハ病患コテ服役ニ堪ヘ難キ者ハ検査ノ上之ヲ免除ス但豫備役及ヒ後備兵役ヨリ志願ノ者ニシテ若シ卒業ノ目途ナキ者ハ僅兵科ニ復シ所管鎮臺ヘ引渡シ鎮臺ニ於テハ前役修業中ノ日ヲ通算シ豫備役若クハ後備兵役ニ編入シ定期ノ服役ヲ帶ハシム

第九條 調馬卒ノ召募ハ缺員アルニ當リ軍馬局長陸軍卿ノ許可ヲ得テ府縣ヘ通牒シ検査格例ニ準據シ検査ヲ爲シ召募スルヲ例トス

第十條 調馬卒志願ノ者検査ノ項目左ノ如シ

- 第一則 年齢 自十八年至二十七年
- 第二則 身長 五尺以上
- 第三則 體質 強壯ノ者
- 第四則 讀書
- 第五則 作文

第六則 算術

第十一條 前條第三則ハ検査醫官ニ於テ之ヲ檢シ其他ハ検査官之ヲ檢シ合格ノ者ハ更ニ一週間通學セシメ實試ノ上採用ス

第十二條 調馬卒志願ノ者ハ身元引受人二名召募地居住ヲ立テ左式ノ願書ニ本籍若クハ寄留地府縣ノ奥書證印ヲ受ケ東京ニ在テハ軍馬局其他ニ在テハ該地所在ノ検査官ヘ差出ス可シ但豫備役及ヒ後備兵役ヨリ志願ノ者ハ本條手續ノ外所管郡區駐在官ノ奥書證印ヲ受ケ差出ス可シ

願書式 用紙美濃白紙

調馬卒御採用願

某 儀

此度調馬卒志願ニ付御検査ノ上御採用被下度尤御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ従事可仕且本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可仕依テ引



受人連署ノ上此段奉願候也

何府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

何國何郡何所産  
何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓名印

年號月日生  
年號月何年何月

身元引受人

府(縣)何族(平民)

府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓名印

全

全

年號月日

全

(陸軍々馬局長)

職官姓名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

府(縣)何郡(區)何町(村)戸長  
戸長アラサ  
ル地ハ區長

姓名印

府(縣)郡(區)駐在官  
官姓名印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事(令)  
姓名印

第十三條 華士族平民中志願ノ者檢査合格ノ上ハ軍人トナルヘキヲ以テ採用ノ時左  
ノ如ク誓文牒ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ證セシム

誓文牒

今般陸軍々馬局調馬卒志願御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍

十七年丙號

〇七



ニ從事可仕且服役年間ハ家事故障ハ勿論假令ヒ病氣ト雖モ自ラ免役ヲ請願致シ候  
等ノ儀ハ仕間敷候仍テ誓文如件

年號月日

姓 名 印  
全 全

○丙第十壹號 十七年一月廿九日 郡役所 戸長役場

農事通信手續別冊之通相定候條本年一月分ヨリ右ニ照準定期報臨時報共戸長役場於  
テ精密ニ調製シ期限ヲ誤ラサル様所轄郡役所へ差出シ郡役所於テハ部内ノ分取纏メ  
一郡限リ總計表ヲ添へ製シ。報道期限後廿五日限リ可差出此旨相達候事 (十七年丙三  
文中ヲ  
改ム)

農事通信手續

第一條 各村戸長役場ニ於テハ此手續ニ據リ村内農事(水産事業ヲ含ム)ノ景況ト勸

農事務ノ顛末トテ調査シテ所轄郡役所ニ通信スルモノトス

第二條 通信ハ分ツテ定期報、臨時報ノ二種トス

第三條 定期報トハ第五條各項中特ニ報道期限ヲ指定スルモノヲ云フ

第四條 臨時報トハ各項中報道期限アルト否トニ關セス氣候ノ變動風雨水旱虫害等  
臨時報道スルモノヲ云フ

第五條 通信事項及ヒ表式附録ニテ定ムルト左ノ如シ

第一項 氣候

戸長役場所在地ニ於テ附録第一号ニ倣ヒ毎月調査シ次月五日限報道スヘシ但測  
候器械ノ設アル所ハ風力、雨量、氣壓等ヲ併記スルモノトス

第二項 土地

耕作地、自作地、小作地、被害田圃、荒地、開墾地及ヒ牧場ハ附録第二號ヨリ第九  
號マテニ倣ヒ毎年調査シ次年二月十五日迄ニ報道スヘシ

十七年丙號

〇八



第三項 戶口

專業、兼業ノ農民、漁民及ヒ自作人、小作人ハ附錄第十號ヨリ第十二號マテニ做  
ヒ五年毎一月一日ノ戶口現在數ヲ調査シ五月十五日迄ニ報道スヘシ

第四項 陸産物

田圃諸作物、製造料植物、果樹及ヒ食料製造料ニ供スヘキ野生植物等ノ景況ヲ報  
道スヘシ又左ニ掲グル品類ノ産額ハ附錄第十三號ヨリ第十六號マテニ做ヒ毎年  
調査シテ次年二月十五日迄ニ報道スルモノトス但米、麥、大豆、綿、菜種、甘蔗、藍  
粟、烟草ノ概況ハ附錄第十七號、第十八號ニ做ヒ麥、菜種ハ其年五月十五日烟草、  
藍粟ハ九月十五日米、綿、大豆ハ十月十五日甘蔗ハ十一月十五日迄ニ報道スヘシ  
米○麥○粟○黍○稗○蕎麥○蜀黍○大豆○小豆○蠶豆○豌豆○甘薯○馬鈴薯  
○蘿蔔○實綿○大麻○苧麻○藍葉○菜種○甘蔗○藍粟○葉烟草○蘭○楮皮○  
雁皮○結香○生蠟○漆汁

第五項 地益

左ニ掲グル品類ハ附錄第十九號ニ做ヒ毎年其耕作ノ損益ヲ調査シ次年二月十五  
日迄ニ報道スヘシ

米○麥○粟○黍○稗○蕎麥○蜀黍○大豆○小豆○蠶豆○豌豆○甘薯○馬鈴薯  
○蘿蔔○實綿○大麻○苧麻○藍葉○菜種○甘蔗○藍粟○葉烟草○蘭

第六項 蠶茶

茶園、桑圃ノ段別ハ附錄第二十號第二十二號ニ做ヒ五年毎ニ調査シ次年五月十  
五日迄ニ報道シ製茶、繭、製絲及ヒ蠶卵紙産額ハ附錄第二十一號、第二十三號ニ  
做ヒ毎年調査シ次年二月十五日迄ニ報道スヘシ但其概況ハ附錄第二十四號、第  
二十五號ニ做ヒ春夏蠶ハ其年七月十五日秋蠶ハ九月十五日製茶ハ六月十五日迄  
ニ報道スルモノトス

第七項 製糖



各種糖業ノ景況ヲ報道スヘシ但其種類、製額等ハ附録第二十六號ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月十五日迄ニ報道スルモノトス

第八項 蜜蜂、家禽

蜜蜂、家禽等繁殖、減耗ノ景況ヲ報道スヘシ但蜜蜂ハ附録第二十、二十一號ニ倣ヒ毎年其産額等ヲ調査シ次年二月十五日迄ニ報道スルモノトス

第九項 畜産

家畜及ヒ食料製造料ニ供スヘキ野生動物等ノ景況ヲ報道スヘシ但牛、馬、羊、豚ハ附録第二十八號ヨリ第三十二號マテニ倣ヒ毎年十二月三十一日ノ現在頭數ヲ調査シ次年二月十五日迄ニ報道スルモノトス

第十項 開墾

新地開墾、荒地起返シ等着手ノ方法及ヒ其後ノ景況ヲ報道スヘシ

第十一項 肥料

種類、製造、需給ノ景況等ヲ報道スヘシ

第十二項 漁業漁場

鮎鰻鮪鮭鯉鱈鱒ノ漁業ハ附録第三十三號ニ倣ヒ漁場及ヒ漁船ハ附録第三十四號第三十五號ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月十五日迄ニ報道スヘシ

第十三項 水産物

河、湖、沼ノ魚、介、苔藻、獸類、繁殖、減耕ノ景況、漁業盛衰ノ原因等ヲ報道スヘシ但左ニ掲グル品類ノ養殖額ハ附録第三十六號第三十七號ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月十五日迄ニ報道スルモノトス

鯉○鮭○鱒○鮠○海苔

第十四項 漁業收益

河、湖、沼ノ捕魚、採藻ニ係ル數量、價格ハ附録第三十八號ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月十五日迄ニ報道スヘシ



第十五項 水陸産ノ災害

氣候ノ變、鳥、獸、蟲、病ノ害都テ水陸ノ産物ニ影響アルモノハ其害ノ淺深及ヒ驅除、豫防ノ景況、成迹等ヲ報道スヘシ

第十六項 諸規則、著書、報告

農事ニ關スル諸調査書、會社、協會等ノ規則并ニ報告書或ハ官民一般ノ著述翻譯、報告書等ハ成ルヘシ現品ヲ郵送スヘシ但著譯書等冊數浩翰ノモノハ題名目錄及ヒ要旨ノミヲ報スルモ妨ケナシ

第十七項 有功者事蹟

同上ノ事項ニ係ル有功者ノ事蹟及ヒ履歷等ハ新古ヲ論セス調査報道スヘシ

第十八項 改良發明

同上ノ事項ニ係ル改良、發明、試験ノ成績及之ニ關スル各地從來ノ習慣、新設ノ方法等ハ成ルヘク周密ニ報道スヘシ

第十九項 諸會

博覽會、共進會、集談會等ノ開設アル片ハ其開閉期日及出品、談話ノ景況等ヲ報道スヘシ

第六條 凡ソ物質形狀等文辭ニ悉シ難キモノハ圖畫、寫眞、雛形若クハ見本等ヲ添ヘ

數量、比例、歩合等ニ係ルモノハ表ヲ附スヘシ

第七條 報文ハ成ヘク讀ミ易キ文字ヲ用ヒ數量歩合等ニ付地方慣用ノ稱呼アルモノ及ヒ方言等ハ解説ヲ加フヘシ

第八條 勸業課ニ於テハ通信ノ要領ヲ編纂シテ報告書トナシ或ハ時々新聞紙ニ登錄シテ一般ニ報道スヘシ

第九條 勸業課ニ於テハ第五條ニ掲グル各項外ノ事項トイヘキ時々問題ヲ設ケテ質問スルコトアルヘシ

第十條 各村戸長役場ヨリ勸業課ヘ質問ヲ要スル事項アル片ハ其事由ヲ詳記スヘシ







































考 備	總 計			村 名		地 名	名 牧	稱 場	段	町	別		
				官	持						民	主	
第十號 農民戶口表、 報道期每年五月十五日													

總 計	村 名	自 作 主	自 作 兼 小 作 主	小 作 主	合 計	總 計	村 名	專 業		兼 業	
								戶 數	男	女	戶 數

第十一號 自作小作人表 報道期每年五月十五日

十七年丙號

〇十六















發生後ノ景況及ヒ豊凶ノ原因等ハ備考欄内ニ記スヘン以下同 第十八號 綿、菜種、煙艸、大豆、甘蔗、 蘆粟概況表 報道期綿、大豆ハ毎年十月十五日 菜種ハ五月十五日、煙艸、蘆粟ハ 九月十五日甘蔗ハ十一月十五日	考 備	總 計	町	均平	石	步	

第十九號 地益表 報道期毎年二月十五日 壹段當平均 十七年丙號 〇二十	考 備	總 計	町	町	均平	一段步實綿見積産額	

村名	品目	播種	栽植	工	數	工	價	糞培料	收	益
	量	株數	男	女	合計	男	女	合計	數量	價金







園圃ノ周圍或ハ園内等ニ茶樹ヲ栽培シ其間ニ他ノ作物ヲナス者ハ茶畦ノ長サヲ測  
 リ畦間六尺ノ割合ヲ以テ段別ニ改算スヘシ倘シ段別ヲ求メ難キモノハ段別野中ヲ  
 區別シテ株數ヲ記スヘシ

自生ノ茶樹アル地ニ於テ刈圃燒圃ニテ茶圃トセンモノハ其茶樹ノ發生自然粗密ア  
 レハ樹ノ大小ニ應シ株數ヲ以テ(大ハ壹歩ニツキ四株乃至  
 六株小ハ八株乃至拾株)見積段別ヲ定ムヘシ

第廿一號 製茶産額表 報道期毎年二月十五日

總計	村名	種別	産額	價	
				價	壹貫目價
			貫	圓	圓

考 備

種別ハ碾茶、玉露製、煎茶、番茶、日乾、釜蒸、黒口、紅茶、烏龍茶ノ九種トス  
 第廿二號 桑圃表 報道期毎年五月十五日

總計	村名	種別	段別	採葉額	壹段歩採葉額		壹貫目價	株數
					貫	圓		
			町		貫	圓		

考 備







第廿五號

製茶概況表

報道期毎年六月十五日

考 備	總 計			村 名	製茶見積額	前年ニ對スル増減	壹段歩生葉産額	生葉一貫目價
								圓

茶樹發芽後ノ景況製額増減ノ原因等ハ備考欄内ニ記スヘシ

第廿六號

製糖表

報道期毎年二月十五日

考 備	總 計			村 名	種 別	産 額	價	壹貫目價
							圓	圓

蔗糖、蘆粟ニ區別シ又白下、二度押、二半、三盆、黑糖、蜜ノ六種ニ別ツ蒸葉糖槓糖ノ産出アル地方ハ之ヲ附記スヘシ

十七年丙號

〇二十四















































毛作ニ毛作ニ拘ラス現ニ作付セシ分ヲ掲ケ不作付段別ハ其事故ヲ備考欄内ニ詳記スヘント更正ス

第八號 新規開墾地表 表式欄外附言

但シ民有地ハ(開墾許可段別)ノ一野ヲ省キ別表ト爲スヘシ

第拾九號 地益表 表式中

栽植株數糞培料ノ二野ヲ省キ(播種量代價)(肥料代價)(諸費)ノ三野ヲ増加ス  
表式欄外附言

(但シ諸費ハ地租地方稅町村費等ヲ云)ノ十六字ヲ増加ス

第三拾號 羊頭數表 表式中

洋種ノ次ハ(雜種)ノ一野ヲ増加ス

第三拾壹號 豚頭數表 表式中

外種ノ次ハ(雜種)ノ一野ヲ増加ス

○丙第拾貳號 十七年二月一日 郡役所 戶長役場 學務委員

小學校掛役主者監事會計掛ノ名稱相應自今某學校幹事ト可相稱其人員ノ多寡給料ノ有無ハ學區内協議上適宜タルヘシ此旨相達候事

但擧手續等總テ從前ノ通事務章程起草心得ノ儀ハ追テ可相達候事

○丙第十三號 十七年二月一日

諸稅監查員提携印章紛失

○丙第十四號 十七年二月一日

諸稅監查員提携印章紛失

○丙拾五號 十七年二月四日 郡役所 戶長役場

今般特別ノ詮議ヲ以テ明治十五年度ヨリ同廿二年度迄八ヶ年間毎年士族二百五十戶(但百五十戶札幌縣五十戶函館縣五十戶根室縣)宛保護ヲ加ヘ北海道へ移住セシムヘク候條於各管内移住請願ノ士族有之トキハ別冊三縣布達移住士族取扱規則並明治十



六年四月第拾號布達轉籍移住者手續及同時號外諭達ノ旨趣等篤ク爲心得候上充分ノ  
目途有之モノニ限リ移住地々方廳ヘノ添書可差出尤限アル戸數ニ付悉ク志望ヲ充タ  
ス能ハサル義ハ豫テ可相心得旨農商務省ヨリ達相成候付志願ノ者ハ添書出願候様可  
告知右布達相添此旨相達候事

但士族ノミニテハ農事ニ不馴ナルヲ以テ自然熟練ノ農家ヲ要用ト認ムルハ移住  
志願ノ士族百戸ニ付農家即平民五戸ノ割ニ至ル迄ハ聯合シテ渡航ノヲテ請願スル  
ヲ得此場合ニハ士族同一ノ保護貸與ノ管候事

(別冊)

甲第二十七號

移住士族取扱規則別冊之通施行候條此旨布達候事

明治十六年六月二日

函館縣令時任爲基

(別冊)

移住士族取扱規則

第一條 總則

第一項 凡ソ他道ノ士族本縣管内ニ送籍移住シ農業一途ニ從事セント欲スル者ハ此  
規則ニ照シテ出願スルヲ得

但士族ニシテ農家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント欲スル者ハ本文ニ準據  
スルヲ得

第二項 此規則ハ士族ノ最貧困ニシテ自力移住シ得カル者ノ爲メ特ニ施行スルモノ  
トス

第三項 移住ハ明治十五年度會計年度以降毎年五十戸ヲ限リ八ヶ年間之ヲ移スヘシ  
但本項制限ニ充ル時ハ此規則ニ由ルヲ得ス

第四項 移住者ハ一戸中強健ニシテ職業ニ堪ユル男女二人以上アル者ニ限ルヘシ

第五項 此規則ニ賴テ移住セシモノハ當初ヨリ二十五年間他ノ營業ニ移ルヲ許サス



若シ中途癡疾又ハ負傷等ノ故チ以テ其業ニ堪ヘサル者ハ其事實ヲ具シテ願出ヘシ  
第六項 凡ソ本則中改正又ハ増補ヲ要スル片ハ其都度農商務卿ノ裁定ヲ經テ之ヲ施  
行スルモノトス

第七項 此規則ニ違背スル者ハ各條ニ照シテ之ヲ處分ス

第二條 移住ノ順叙

第一項 移住者ハ第一號書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣ニ  
願出ヘシ

第二項 本廳ハ其戸數人口及事由ヲ調査シ意見ヲ具シテ農商務卿ノ裁定ヲ經テ許否  
スヘシ

第三項 着松場ヨリ移住地マテ陸路ノ距離六里以上アル者ニ限り荷物運送費トシテ

第五條第二項ノ區別ニ照シ一戸金拾圓以内ノ額ヲ貸與スヘシ

第四項 移住ノ季節ハ本縣ニ於テ之ヲ豫定シ其時々願者ニ指示スヘシ各自隨意ニ渡

航スルヲ許サス

第五項 移住願ハ移住地配置ノ都合ニ依リ豫算ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ若シ豫算ニ  
足ラサル片ハ其豫算ニ滿ツルヲ俟テ移住セシムルコトアルヘシ

第三條 地所ノ制限

第一項 移住者配置ノ箇所ハ本縣ニ於テ豫メ指定スル所ノ區域ニ限ルヘシ

但配置ノヶ所ハ位置及地積等ヲ概記シ時々新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告ス  
ヘシ

第二項 耕宅地ハ一戸凡ソ壹萬坪トシ素地代價及ヒ年季ヲ定メテ之ヲ貸與シ開墾地  
トナリタル地所ニ限り滿季後滿三ヶ年間ヲ以テ素地代價徴収ノ期限トシ該期限内  
上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ

第三項 貸地年季ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徴セス素地代價  
ハ千坪金五拾錢ヲ超エサルモノトス



第四項 貸地満期後二十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徴收スヘシ但素地代價徴收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ同上地租同一額ノ貸地料ヲ徴收スヘシ

第五項 耕宅地ハ豫メ其區畫ヲ定メ抽籤ヲ以テ分賦スヘシ各自隨意ニ撰擇スルヲ許サス

第六項 當籤ノ地所各自ノ都合ニ依リ相對示談ノ上交換セント欲スル片ハ其事由ヲ具シテ認可ヲ請フヘシ

第七項 耕宅地ノ外山林又ハ原野ヲ拂下ケ一村若クハ數村ノ共有ヲラシムルコトアルヘシ

第八項 山林拂下ノ順叙ハ一般ノ成規ニ據ルヘキ勿論ナリト雖モ其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ケノ年ヨリ三十ヶ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコトアルヘシ

第九項 既ニ拂下タル山林ハ永久保存ノ方法ヲ立シメ其樹木ハ自家建築及薪炭用

ノ外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十項 樹木伐採ノ手續ハ都テ一般ノ成規ニ遵フヘシ

#### 第四條 開墾ノ目的

第一項 凡ソ農業ハ其耕作ノ種類ニ因テ大ニ得失ヲ異ニスルモノナレハ本縣ニ於テ

ハ常ニ氣候ノ寒暖耕種ノ方法及ヒ物品ノ消流等ヲ調査シ時々之ヲ勸奨指示スヘシ

第二項 耕地ハ豫メ一戸三町歩ト定メ移着ノ年ヨリ三ヶ年間ニ必ス之ヲ墾了スヘシ

而シテ尙ホ餘力アリ更ニ増地ヲ請求スル者ニハ其確否ヲ檢査シ應分ノ地租ヲ貸與

スルコトアルヘシ三ヶ年ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ舉サル地所ハ臨機ニ引揚ケ或ハ他人

ニ貸渡替ヲナスコトアルヘシ

第三項 豫定ノ耕地ヲ墾成スル爲メ毎戸必ス課程ヲ定メ新墾坪數ヲ日表ニ登記セシ

メ毎週其勤惰ヲ督視スヘシ

第四項 課程ハ雨雪其他實際就業シ得サル日數ヲ除キ一戸一日貳拾坪以上ノ耕地ヲ



新墾スルモノトス若シ事故アリ其課程ヲ了ラサル片ハ次ノ一週日間ニ於テ之ヲ償ハシムヘシ

第五項 課程ヲ怠ルコトケ年間三回ニ及フ者ハ其輕重ヲ酌量シ輕キハ五日乃至十日重キハ一月乃至三月全家米鹽贈ノ貸與ヲ停止スヘシ

第六項 穀菽及藍麻菜種ノ類凡ソ地方ノ物産トナスヘキ者ハナルヘク之ヲ勸奨シ漸次其販路ヲ開カシムヘシ

第七項 毎歲播種ノ耕産ハ豫テ其段別及種類ヲ詳記シテ届出ヘシ本縣ハ之ヲ調査シ意見アル片ハ更ニ其段別ヲ増減シ又ハ種類ヲ改撰セシムヘシ

第八項 日々就業ノ時間及ヒ開墾ノ順叙ハ別ニ定メタル細則ヲ遵守スヘシ

第九項 凡ソ此舉ノ方法ハ本縣ニ於テ擔當官吏ヲ實地ニ派シ其事業ヲ督視シ勤惰ヲ查察セシムヘシ若シ其指揮ニ背ク者ハ本條第五項ニ準擬處分スヘシ

第五條 貸與ノ規程

第一項 出貸スヘキ金員ハ一戸三百十三圓五十錢ニ超ヘサル額ヲ程度トシ左ノ制限ニ照シテ貸下ヘシ

移住者一戸貸與額ノ制限

七年以上	壹米	五合
六十年未滿	壹米	壹錢五厘
六十年未滿	壹米	壹錢五厘
六十年以上	壹米	壹錢
鐵	三挺	壹錢
鎌	二挺	壹錢
山刀	一挺	壹錢
鋸	二挺	壹錢
鑼	一挺	壹錢
鏡	一個	壹錢
砥	二個	壹錢

十七年丙號

〇三十八



肥桶 一荷

種子物料 金壹圓五拾錢

假屋作料 金七拾五圓以內

耕牛馬ノ内每貳戸 金貳十五圓以內

＝壹頭ノ割 着港ヨリ移住地迄 陸路荷物運送費 金拾圓以內

第二項 出貸スヘキ金品ハ本縣ニ於テ之ヲ管理シ第一項ノ制限ニ據リ左ノ手續ニ照シテ下渡スヘシ

金品下渡ノ手續

米及鹽贈料

以上各戸現在ノ人口ヲ計算シ移着ノ月ヨリ滿ニケ年間每一ケ月分其前月下旬ニ下渡スヘシ

農具農牛馬及種子物料

假屋作料

以上農業着手ノ緩急ニ應ジ移住初年ニ限リ下渡スヘシ

以上假屋ノ仕様建坪及繪圖面等ヲ檢査シ積書ノ金員相當ト認ムルキハ出貸金額ヲ三分シ其一分ヲ作事着手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ後下渡スヘシ 陸路荷物運送費

以上着松場ヨリ移住地迄六里以上十里未滿ハ一戸金貳圓五拾錢十里以上二十里未滿ハ同上金五圓二十里以上三十里未滿ハ同上金七圓五拾錢三十里以外ハ同上金拾圓ヲ貸下ヘシ

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出貸金額ニ組入ルヘシ

第四項 貸與金ハ其支出ノ遲速ニ係ハラス都テ各自移着ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年間無利子据置翌ハケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限リ返納セン



ムルモノトス

但若シ期日ニ至リ滞納スルモノアルハ該金額ニ年一割二分ニ相當スル利子ヲ課シ滞納日數ニ應シテ徵收スヘシ

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルニハ先ツ第貳號書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其誤謬ナキヲ認メハ更ニ第三號書式ノ證書ヲ徵シテ下渡スヘシ

第六項 出生死亡ハ其程度必ス届出シメ貸與金支出ノ證據ニ供スヘシ而シテ其出生者ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與シ死亡者ニハ死去ノ日ヨリ停止スヘシ

第七項 貸與金額皆納ノ日迄ハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣貸讓與シ又ハ書入質入ト爲スヲ許サス

第八項 己ムヲ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ歸村スルキハ不在中尙成規ノ米及鹽糶料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ其日數六日以外ニ及フキハ歸着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ控除ニ歸ス

ヘシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ業務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セシ後尙ホ課程ヲ怠ルノ場合ニ於テハ將來一切ノ貸與ヲ停止シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ係ラス即時ニ之ヲ完納セシムヘシ

但即時完納シ得サル片ハ家屋及農具其他一切ノ所有物等ヲ公賣シテ其代價ヲ追徵シ尙ホ不足ヲ生スル片ハ連借人ヲシテ辨償セシムヘシ

### 第六條 雜則

第一項 移住者便利ノ爲メ二十戸ヲ以テ一組トシ每組ニ總代一名ヲ置キ都テ戸長ノ指揮ニ從ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シ戸長ノ認可ヲ得ル者トス

第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳ヘ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ戸長ニ報告スルヲ得



第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限リニアラス  
 第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシルソ天災生死等緩急相救ヒ吉凶相援クルノ情誼  
 ナ厚フシ決シテ疎隔ナキヲ務ムヘシ  
 第壹號書式(戶籍調ハ一般ノ例規ニ倣フヘシ)

移住願

今般明治十六年甲第貳拾七號御布達移住士族取扱規則ヲ遵守シ御縣下へ移住農業一  
 途(或ハ農家ニ緊要)ヲ以テ家産相當ニ度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戶籍明  
 細調書相添此段奉願候也

何府縣下何國何郡何村何番地士族

年號月日

全 全

何ノ誰印  
 何ノ誰印  
 何ノ誰印

函館縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也

戸長

何誰印

第貳號書式

(農具及假家作料荷物運送費等)  
 ノ仕出書式共此例ニ準スヘシ

明治何年何月分御貸與米金支出

一米何程  
 一金何程

何ノ誰  
 家族何人

内譯

米何程  
 金何程

七年以上六十年未滿  
 何人

但一人ニ付一日  
 米五合  
 金壹錢五厘

米何程  
 金何程

七年未滿六十年以上  
 何人

但一人ニ付一日  
 米三合  
 金壹錢

十七年丙號

〇四十一



(以下毎戸此例ニ倣ヒ列記スヘシ)  
合米何程  
金何程

右ハ本年何月一日ヨリ何日迄日數何日分米金書面ノ通御貸與被下度因之仕出候也

年號月日

戸長

何ノ誰印

總代

何ノ誰印

第三號書式 (農具及假家作料荷物運送費等)  
ノ證書式モ此例ニ準スヘシ

印紙  
貼用

證

一金何程

是ハ明治何年何月御貸與米金七年以上六十年未滿何人七年未滿六十年以上何人

分

右御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則ノ通相心得聊カ無相違返納可仕候萬  
一期限相滯候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ハラス連借人ニ於テ悉皆辨納可仕候  
爲後日拜借証書如此ニ候也

年號月日

拜借人

何ノ誰印

同

何ノ誰印

函館縣令某殿

甲第二十五號

移住士族取扱規則別冊ノ通リ相定候條此旨布達候事

明治十六年六月七日

札幌縣令調所廣丈

十七年丙號

〇四十二



(別冊)  
移住士族取扱規則

第一條 總則

(第一項ヨリ第二項ニ至リ前書函館縣ト同文ニ付零ス)

第三項 移住ハ明治十五年度<sup>會計年</sup>以降毎年百五十戸ヲ限八ヶ年間之ヲ移スヘシ

(第四項ヨリ第四條第九項ニ至リ亦函館縣ト同文ニ付零ス)

第五條 貸與ノ規程

第一項 出貸スヘキ金額ハ一戸三百三十拾圓ニ超ヘサル額ヲ程度トシ左ノ制限ニ照シテ貸下ヘシ

(餘ハ總テ函館縣ト同文ニ付零ス)

札幌縣令某殿

甲第三十四號

士族移住民取扱規則

第一條 凡ソ他道ノ士族<sup>貧困ニシテ自カラ移住スル能ハサルモノ</sup>本縣管内ヘ送籍移住シテ農業及漁業ニ

従事セント欲スル者ニ限リ明治十五年度ヨリ一ヶ年五十戸ツ、向ッ八ヶ年間移住ヲ許可スヘキ爲メ此規則ヲ施行スヘキモノトス故ニ志願者<sup>一戸内ニ健強職業ニ耐ル</sup>目途ノ當否ヲ審査シ着實ナルモノハ農商務卿ヘ稟議ノ上許可スヘシ

但士族ニシテ農家漁家緊要ノ關係ヲ有スルモノハ本文ニ準據スルヲ得

第二條 農業ヲ以テ移住ヲ許スヘキ國チ釧路根室北見ノ三ヶ國トシ其着手ノ順序ヲ

二次ト定メ釧路根室ヲ第一着ニ北見ヲ第二着トシ順次移住セシムヘシ漁業ヲ以

テ移住ヲ許スヘキ國チ千島國トス

第三條 移住セシムル期節ヲ毎年五月ヨリ十一月ノ間トス

第四條 前條四ヶ國ノ中地所ヲ撰ンテ左ノ十二ヶ所トシ一ヶ所ヘ同時移住ノ戸數ヲ五十戸トナス

十七年丙號

〇四十三



但五十戸以下十戸或ハ二十戸ツ、移ラントスル片ハ其數五十戸ニ充ツルヲ待テ  
之ヲ移スヘシ

根室國

根室郡温根沼 百戸 同郡厚別村 百戸

釧路國

厚岸郡濱中山ノコベリベツ 百戸 同郡真龍村 二百戸 釧路郡ヨリ白糖郡

ニ至ル平原 三百戸 釧路郡釧路川沿岸 百戸 川上郡塘路村 五十戸

北見國

紋別郡湧別村 百戸 網走郡網走村 二百戸 常呂郡常呂村 五十戸

千島國

國後郡泊村 五十戸 擇捉郡擇捉村 百戸

第五條 移住者ハ別紙書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣へ願

出ヘシ

第六條 此規則ニ賴テ移住セシ者ハ當初ヨリ廿五ヶ年間他ノ營業ニ移ルヲ許サス若  
シ中途廢疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘサルハ其事實ヲ具シテ願出ヘシ

第七條 移住地百物運搬ノ便利ヲ計リ一戸毎ニ區畫ヲ正フシ貸與地ヲ割渡スヘシ

第八條 農業ヲ目的トシテ移住スル者ハ一戸ニ付宅地千坪開墾地一萬五千坪以内ノ

地所ヲ貸渡シ貸地年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徴セス素地代價

千坪金五拾錢ヲ超ヘサルノ割ヲ以テ開墾地トナリタル地所ニ限リ滿期後滿三ヶ年

間ヲ素地代價徵收ノ期限トス該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有

地トナスヘシ

第九條 貸渡地ノ内耕地九千坪ハ移着ノ年ヨリ三ヶ年間ニ必ス墾成スヘシ若シ三ヶ

年間ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ舉ケサルトキハ其未墾ノ地所ヲ臨機ニ引揚ケ或ハ他人

ニ貸渡替ヲナスコアルヘシ



第十條 第八條ノ貸地満季後二十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵収期年內ニ在テ素地代價未納ノ分ハ同上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第十一條 耕宅地ノ外山林原野チ一村若クハ數村ノ共有地ニ拂下クルコトアルヘシ

第十二條 山林拂下ノ順序ハ成規ニ依ルヘシ但其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ノ年ヨリ三十ヶ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコトアルヘシ

第十三條 既ニ拂下タル山林原野ハ永久保存ノ方法ヲ立テシメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十四條 貸出スヘキ金額ハ一戸金三百六拾三圓ニ超ヘサルノ額ヲ程度トス而シテ其農業者ニハ本條及ヒ第十九條第二十條第二十一條ニ依リ漁業者ニハ第十六條第十八條第十九條第二十條第二十一條ニ依リ貸出チナスヘキモノトス  
一新墾アラチ一個 但三頭率

一 麻製牽馬具 四頭分 一 耕馬 五頭 一 ハロー 一箇

右ハ移住初年度ニ限リ十戸チ一組トナシ貸與ノ分

一 鍬 三挺 大一 二挺 柴刈  
小二 鑿鐮山刀 各一挺 一 鎌 二挺 草刈

右ハ移住初年度ニ限リ毎戸貸與ノ分

以上諸器具ノ修補等ハ自辨クルヘシ

第十五條 移住シテ特別ナル官ノ保護ヲ受クル期限内ハ左ノ種類ヲ播種セシメ管應

ニ於テ其収穫物販賣ノ途ヲナシ與フヘシ

大小麥 麻 蕎麥 大小豆 粟

第十六條 漁業ヲ用途トシ移住スルモノハ千島國地方ニ於テ新開ノ漁場ヲ撰ヒ一戸

ニ付一ヶ所或ハ二ヶ所ヲ貸渡貸渡年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿五ヶ年トシ其間貸地料ヲ

徵セス素地代價ハ千坪金七拾五錢ヲ超ヘサルノ割チ以テ開地トナリタル地所ニ限

リ滿季後滿三ヶ年間ヲ素地代價徵收ノ期限トス該期限内上納ノモノニハ同時ニ地



券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ

第十七條 第十六條貸地滿季後十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵收期年內ニ在テ素地代價未納ノ分ハ同上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第十八條 漁業目途ニテ移住ノモノニハ十五戸ヲ一組トナシ金額千八百六拾六圓以內ヲ以テ移住初年ニ限リ左ノ漁船并ニ漁具ヲ貸與スヘシ

- 一 圖合船 二艘
- 一 ナヨロ船 一艘
- 一 持府船 二艘
- 一 建網 一統
- 一 引網 一統
- 一 錨 一錠
- 一 艇 十一挺
- 一 漁舎 一棟

以上諸器具ノ修補等ハ自辨スヘシ

第十九條 家屋ハ農漁ノ別ナク一戸十五坪ノ草小屋一棟新築費トシテ金九十圓以內ノ額ヲ二期着手ノ際落成ノ上ニ貸與スヘシ但官ニ於テ新築ノ上貸與セラレノヲ請フ者アル片ハ其請願ヲ許スヘシ

但シ自費ヲ加ヘ建家ノ坪數ヲ増加セントスル者ハ本人ノ隨意ニ任スヘシ

第二十條 食料ハ人員ニ應ジ農業者ハ着籍ヨリ二ヶ年漁業者ハ一年六ヶ月間左ノ割合ヲ以テ玄米及鹽噌料貸與スヘシ

玄米 七年以上六十年未滿一日一人玄米五合七年未滿六十年以上一日一人米三合ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

鹽噌料 七年以上六十年未滿一ヶ月一人金四拾五錢七年未滿六十年以上一ヶ月一人金三拾錢ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

第二十一條 着港ヨリ移住地迄陸路ノ距離六里以上アルモノニ限リ荷物運送費トシテ若干ノ金額ヲ貸與スルコトアルヘシ

第二十二條 第十四條ヨリ第二十一條ニ於テ貸與シタル物品ノ金額ハ無利子七ヶ年振置キ第八ヶ年目ヨリ向フ二十ヶ年賦ヲ以テ毎年十一月三十日限リ返納スヘシ但貸與シタル物品代價ハ其年度末決算ノ上各自ニ報告スヘシ



第二十三條 移住人保護獎勵監督ノ爲就業課程ヲ定メ其係ヲノ毎ニ勤惰ヲ糺スヘシ  
若シ懶惰ニシテ其課程ヲ勉メサルモノアルハ臨機貸與ヲ停止スヘシ然ル上尙ホ  
課程ヲ怠ルモノハ既ニ貸下ケタル金額ハ年賦返納ノ規則ニ係ハラヌ即時ニ之ヲ完  
納セシムヘシ即時完納シ得サルハ家屋及農具其他一切ノ所有物ヲ公賣シテ其代  
價ヲ追徴シ尙ホ不足ヲ生スルハ連借人ヲシテ辨償セシムヘシ

第二十四條 己ヲ得サル事故アリ屆濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ  
歸村スルハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽贈料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ日數六日以外  
ニ及フハ歸着屆書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ扣除ニ歸  
スヘシ

第二十五條 移住人出生死亡ハ其都度必ス届出ヘシ其出生者ニハ屆書受理ノ日ヨリ  
成規ノ貸與ヲナシ死亡者ニハ死亡ノ日ヨリ停止ス

第二十六條 貸與金額皆納ノ日マテハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣買讓與シ

又ハ書入質入ト爲スヲ許サス

書式(用紙美濃  
紙五通)

移住願

私共儀

明治十六年御縣甲第三十四號御布達士族移住取扱規則ニヨリ農業ノ目途ヲ以テ某年  
某月ヨリ御管下某國(郡村)へ移住仕度ニ付御詮議ノ上御許可被成下度然ル上ハ御成  
規ハ勿論時々ノ御命令ヲ遵守シ誓テ成業可仕候戸籍書寫相添連署ヲ以テ此段奉願上  
候也

某府縣町番地

士族

明治年月日

姓名印

年齡

十七年丙號

〇四十七



以下同前連名  
右總代人二名(移住願人ノ中ニテ)

根室縣令某殿

○丙第十六號 十七年二月八日

諸稅監查員提携印章紛失

○丙第十七號 十七年二月十三日

鳥取縣下徵兵名簿記載ノ者脱籍逃亡ニ付所在取糺届出サシム

○丙第十八號 十七年二月十四日

郡役所 戶長役場

學務委員

管內公立學校生徒中不都合ノ行爲アリテ退學セシメタル者ハ其情狀ニ因リ文部省ヘ具申ノ上管內公立私立ノ學校ヘ入學ヲ禁シ又ハ文部省直轄官立學校及府縣公立私立ノ學校ヘ入學ヲ禁スルコアルヘシ此旨相達候事

但本文ノ處分ヲ要スルトキハ其族籍姓名事由ヲ具シテ可申出事

○丙第十九號 十七年二月十五日 郡役所 戶長役場 學務委員

本縣小學校教科書表中別表之通追加候條此旨相達候事

岐阜縣小學校教科書表

小學初等科ノ部

修身科

圖書名	卷冊記号	出版年月	著者氏名	出版者氏名
幼學綱要	七冊	明治十五年十二月		宮内省
白鹿洞院揭示講義	一冊	未詳 明治十六年十月求版	山崎闇齋集註 淺見綱齋講義	岐阜縣厚見郡岐阜米屋町十番地三浦源助

十七年丙號

○四十八



小學讀本  
編野芳原  
次二名  
外用書

日本外史  
代用書

作文科		小學作文大全 六冊 一ヨリ 六マテ	明治十六年七月	文學社編纂	東京日本橋區本町四丁目十六番地 文學社
習字科		初等小學習字本 六冊	明治十五年十二月	卷菱潭書	東京日本橋區本町三丁目十七番地 亮三郎
小學中等科ノ部 讀書科		小學讀本 三冊	明治十六年九月	內田嘉一編	東京日本橋區本町三丁目十七番地 亮三郎

作文科		小學漢文讀本 三冊	明治十六年十月	阿部弘藏編	同上
習字科		小學作文全書 六冊 七ヨリ 十二マテ	自明治十六年七月 至同九月	文學社編纂	東京日本橋區本町四丁目十六番地 文學社
中等小學 習字本 六冊		小學高等科ノ部 讀書科	明治十五年十二月	卷菱潭書	東京日本橋區本町三丁目十七番地 亮三郎

十七年丙號

〇四十九



日本外史  
代用書

近古史談四  
冊  
未詳  
明治十六年十月求版  
大槻清崇 著  
岐阜縣厚見郡岐阜  
米屋町十番地  
三浦源助

作文科

小學作文大全	四冊 十三ヨリ 十六マナリ	明治十六年十月	文學社 編纂	東京日本橋區本町 四丁目十六番地 文學社
和漢文章軌範 名家文章軌範 三冊	明治十三年十月	小川亮 味岡正義 編	西山梨郡甲府常盤町 四番地 內藤傳右衛門	

(十七年丙八十七號ヲ以本項中刪除)

但土地ノ情況ニヨリ代用書相用候學校ニ於テハ其都度縣令へ開申スルモノトス

○丙第二十號 十七年二月十五日 郡役所 戶長役場  
小學作文大全ハ書中誤謬等不尠ニ付教授ノ際注意スヘシ(十七年丙八十七號ヲ以追加)

摘要

日本坑法第八章第三十一款改正増補ノ義十四年九月第四十九號公布相成候處處分方  
遷延ノ向モ有之不都合ニ付以來怠納者ハ二月一日ヲ以斷然証券取揚營業禁止候旨工  
部省ヨリ達相成候條怠納者有之片ハ右日限戶長ニ於テ証券取揚怠納ノ始末書ト共ニ  
五日以内郡役所へ差出郡役所於テハ意見書相添へ直テニ本廳ニ廻送スヘシ此旨相達  
候事

但本文ノ場合ニ於テハ税金徵收ニ不及候事

○丙第二十一號 十七年二月十五日 郡役所 戶長役場

山形縣東村山郡矢野目村平民警視局元四等巡查心得松浦吉助在否取調届出サシム

○丙第二十二號 十七年二月廿一日 郡役所 戶長役場 學務委員

本縣華陽學校師範學科試業規則中別紙之通改正候條此旨相達候事

岐阜縣華陽學校師範學科試業規則第十四條以下左之通改正ス

第十四條 初等科中等科高等科卒業ノモノニハ第一號書式ノ卒業證書ヲ與フ其證書

十七年丙號

〇五十



ハ七ケ年間有効ノモノトス

第十五條 卒業証書有効ノ期滿テ更ニ之ヲ請フモノアルハ現行ノ教則ニヨリテ各學科ヲ試験シ品行等檢定ノ上合格ノ者ニハ第二號書式應請卒業証書ヲ與フ其證書ハ七ケ年間有効ノモノトス

但此場合ニ於テ試業方法ハ此規則ニ據ルモノトシ且三日ヨリ少ナカラサル間附屬小學校ニ於テ授業術ヲ試験ス

第十六條 本校ニ入學セスト雖モ卒業証書ヲ請フ者アルハ現行ノ教則ニヨリテ各學科ヲ試験シ品行等檢定ノ上合格ノ者ニハ第三號書式應請卒業証書ヲ與フ其證書ハ七ケ年間有効ノモノトス

但書前條ニ同シ

第十七條 高等若クハ中等師範學科卒業証書ヲ有スル者ニシテ七ケ年以上小學教員ノ職ニ從事シ學力優等授業練熟品行端正ノ證跡アリテ縣令ノ認定ヲ經タルモノニ

ハ試験ヲ須ヒス第四號書式終身有効ノ考績卒業証書ヲ授與ス

第十八條 高等若クハ中等師範學科卒業証書所持ノ者又ハ本校現行ノ教則實施以前ニ係ハル卒業証書ヲ所持シ高等若クハ中等師範學科ニ該當スルモノニシテ學力優等授業練熟品行端正ノ證跡アル者ニハ試験ヲ須ヒス更ニ七ケ年有効ノ第五號書式考績卒業証書ヲ授與ス

(用紙鳥ノ子紙)

卒業証書

第一號書式	校印	何府(縣)族籍
右ハ當校制定ノ教科ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了セルヲ以テ	姓名	何年何月
初等		
高等		

十七年丙號

〇五十一



卒業證書

師範學科卒業證書ヲ授與ス則向後七ケ年間小學(初、初中、各)等科ノ教員タルヲ得ヘキモノ也

明治何年何月何日

番號

岐阜縣華陽學校長 姓

名印

卒業證書

何府(縣)族籍

姓 名

何年何月

第二號式應

右ハ請ニ應ニ當校ノ教則ニヨリテ學業ヲ試験シ且其品行等檢定ノ上(初、中高)等師範學科卒業證書ヲ授與ス即向後七ケ年間

請卒業證書

小學(初、初中、各)等科ノ教員タルヲ得ヘキモノ也

明治何年何月何日 官立何師範學校制定ノ教科ヲ履修シ何

等師範學科卒業證書受領若クハ明治何年何月何日 官立何

師範學校ニ於テ學業ノ試験ヲ經テ何等師範學科卒業證書受

領茲ニ又此卒業證書ヲ授與ス

明治何年何月何日

岐阜縣華陽學校長 姓

名印

番號

從來卒業證書ヲ受領シタルヲ幾回ナルモ悉ク之ヲ記入スヘシ

第三

卒業證書

何府縣族籍

十七年丙號

〇五十二



式書號 應請卒業證書 第四號

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニヨリテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢  
定ノ上(初、中、高)等師範學科卒業證書ヲ授與ス即向後七ケ年  
間小學(初、初中、各)等科ノ敎員タルヲ得ヘキモノ也  
明治何年何月何日  
岐阜縣華陽學校長 姓 名 印

姓 名 何年何月

卒業證書

何府縣族籍 姓 名

式書 考績卒業證書

右ハ從來ノ功績ヲ考ヘ試驗ヲ須ヒス中等師範學科卒業證書ヲ  
授與ス即終身小學(初中、各)等科ノ敎員タルヲ得ヘキ者也  
明治何年何月何日官立何府縣何師範學校制定ノ敎科ヲ履修シ何  
等師範學科卒業證書受領若クハ明治何年何月何日官立何  
師範學校ニ於テ學業ノ試驗ヲ經テ何等師範學科卒業證書受  
領若クハ又明治何年何月何日官立何府縣何師範學校ニ於テ功績  
ニヨリ何等師範學科卒業證書受領茲ニ何ケ年間小學校敎員  
ノ職ニ從事シ學力優等授業練熟品行端正ノ證跡アルヲ以テ  
此卒業證書ヲ授與ス  
明治何年何月何日

何年何月

岐阜縣華陽學校長 姓

名 印

十七年丙號

〇五十三



番號

從來卒業証書ヲ受領シタルヲ幾回ナルモ悉ク之ヲ記入スヘシ

卒業証書

何府縣族籍

姓名

何年何月

第五號式考績卒業

右ハ從來ノ功績ヲ考ヘ試験ヲ須ヒス中、高等師範學科卒業証書ヲ授與ス則向後七ヶ年間小學(初中、各)等科ノ教員タルヲ得ヘキモノ也

明治何年何月何日官立何府縣立何師範學校制定ノ教科ヲ履修シ何等師範學科卒業証書受領若クハ明治何年何月何日官立何府縣立何

業証書

師範學校ニ於テ學業ノ試験ヲ經テ何等師範學科卒業証書受領若クハ又明治何年何月何日官立何府縣立何師範學校ニ於テ功績ニヨリ何等師範學科卒業証書受領茲ニ學力優等授業練熟品行端正ノ證據アルヲ以テ此卒業証書ヲ授與ス

明治何年何月何日

岐阜縣華陽學校長 姓

名印

番號

從來卒業証書ヲ受領シタルヲ幾回ナルモ悉ク之ヲ記入スヘシ

○丙第二十三號 十七年二月廿七日 郡役所 戶長役場  
醫籍編製候ニ付左ノ書式ニ照準シ本年一月一日現在醫師ノ氏名等取調來三月十五日限リ郡役所へ可差出郡役所ニ於テハ其部内取纏速ニ進達可致此旨相達候事  
明治十七年一月一日何國何郡何町村現在內外科醫師氏名何府縣試驗ヲ經クル者

十七年丙號

〇五十四



受驗地名	受驗年月	免狀授與年月日	住所	籍	族	生年月	氏名
何府縣	何年何月	何年何月何日	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某
東京大學ニ於テ醫學卒業証書ヲ得タル者							
卒業年月	免狀授與年月日	住所	籍	族	生年月	氏名	
何年何月	何年何月何日	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某	
外國ニ於テ醫學卒業証書ヲ得タル者							
修學地名	証書年月日	免狀授與年月日	住所	籍	族	生年月	氏名
何國何地何學校	何年何月何日	何年何月何日	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某
奉職履歷ニ依ル者							
免狀授與年月日	住所	籍	族	生年月	氏名		
何年何月何日	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某		

何年何月何日	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某			
從來醫師ニシテ開業ノ証ヲ授與セシ者								
免許證授與年月日	住所	籍	族	生年月	氏名			
何年何月何日	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某			
十五年本縣甲第二十八號布達ニヨリ開業ノ証ヲ授與セシ者								
免許證授與年月日	住所	籍	族	生年月	氏名			
何年何月何日	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某			
明治十七年一月一日何國何郡何町村現在専門醫師氏名								
受驗地名	受驗年月	免狀授與年月日	科目	住所	籍	族	生年月	氏名
何府縣	何年何月	何年何月何日	內科外科或產科等	何町村	何府縣何國何郡	華士族	何年何月	何某

十七年丙號

○五十五



外國ニ於テ醫學卒業證書ヲ得タル者

修學地名	證書年月	免狀授與年月日	科	目	住所	本籍	籍	族	生年月日	氏名
何國何地 何學校	何年何月 何日	何年何月 何日	何	何	何町何村	何府縣何國何郡 何區何町何村	何	華士族 平民	何年何月 何日	何氏某

奉職履歷ニ依ル者

免狀授與年月日	科	目	住所	本籍	籍	族	生年月日	氏名
何年何月何日	內科 或產科等	外科 何	何町何村	何府縣何國何郡 何區何町何村	何	華士族 平民	何年何月何日	何氏某

從來醫師ニシテ開業ノ証ヲ授與セシ者

免狀授與年月日	科	目	住所	本籍	籍	族	生年月日	氏名
何年何月何日	內科 或產科等	外科 何	何町何村	何府縣何國何郡 何區何町何村	何	華士族 平民	何年何月何日	何氏某

十五年本縣甲第二十八號布達ニ依リ開業ノ証ヲ授與セシ者

免狀授與年月日	科	目	住所	本籍	籍	族	生年月日	氏名
何年何月何日	內科 或產科等	外科 何	何町何村	何府縣何國何郡 何區何町何村	何	華士族 平民	何年何月何日	何氏某

○丙第二十四號 十七年二月廿九日

大分縣下徵兵名簿記載ノ者脱籍逃亡ニ付所在取糺シ届出サシム

○丙第二十五號 十七年三月五日 郡役所 戶長役場 學務委員

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其憲不謬候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候條文部省ヨリ達相成候條此旨相達候事  
但幼稚園規則ハ追テ相達スヘシ

○丙第二十六號 十七年三月十四日 郡役所 戶長役場 學務委員

明治十六年度地方稅小學校補助金之儀昨十六年六月丙第五十七號ヲ以テ相達置候處今般左之通相改メ配付候條此旨相達候事  
一金貳萬五千七百七拾圓六拾八錢 十六年度小學校補助費配附額



内譯

金壹萬八千八百八拾圓六拾八錢(但一人ニ付拾四錢)

學齡人員割

金六千八百九拾圓(但一校ニ付拾圓)

小學校割

○丙第二十七號 十七年三月十四日 郡役所 戶長役場

近來着色偽似ノ茶ヲ製出シ又ハ不頁茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右ハ正業者ノ妨害ト可相成ハ勿論人身ノ健康ニモ相關リ候義ニ付各管内ニ於テ茶業ニ従事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合爲相立其規約認可ノ上農商務省へ可届出旨内務農商務兩卿ヨリ達相成候付營業者へ普ク可告知此旨相達候事

但明治十五年本縣丙第二十四號達并同時論達ニ基キ各地組合相立盟約取結有之ニ付別段組織上變更候ニハ不及候得共兼テ認可致シ置候組合規則及ヒ申合規約等ハ茶業組合準則ニ據リ矛盾ノ廉々加除ノ上認可願出候様致スヘシ

○丙十五年丙第二十四號ハ第六卷十一類  
縣三十八回論達ハ全三十九ニアリ



第壹號

明治何年何月何日 右可相納候也	金何程 一印	甲明治何年度何組(小科日) 納期何年何月何日限 六印	一 是ハ最初戸長へ相達スル片郡 二 是ハ一村ノ納金取束子國庫 三 是ハ戸長ヨリ税金ヲ預リ 四 是ハ税金預リタル片國 五 是ハ戸長ヨリ税金上 六 是ハ戸長ヨリ税金
	郡 所 役 印	郡 官	



へ相達スルハ郡役所元帳ト押切且割付ヲ証スル爲メ之ニ捺印ス即チ第一ノ手順ナリ  
 納金取束子國庫金取扱所ニ相渡スノ証ニシテ即チ第二ノ手順ナリ  
 ヲリ税金ヲ預リタル証印ニシテ即チ第三ノ手順ナリ  
 預金預リタル片國庫金取扱所ノ元帳ニ押切モノニシテ即チ第四ノ手順ナリ  
 ハ戸長ヨリ税金上納ノ際証印スルモノニシテ即チ第五ノ手順ナリ  
 是ハ戸長ヨリ税金上納済ニ至リ郡長領收ノ証印ニシテ即チ第六ノ手順ナリ

年度何租 (小科目) 第何期又ハ前(後)半期分 年何月何日限	何郡何町 戸長 何之誰 ⑤ 六印	郡長 官印	何郡役所 郡役 何月何日
	何郡 何町分 何之誰 ④ 三印	郡長 官印	何郡何町 戸長 何之誰 ② 二印



第壹號

第一雛形

郡役所印

明治何年分何租(小科目)第何期又  
納期何年何月何日限

金百圓

納人

內

金九拾圓

郡長官印

何月何日

外

金拾圓

不

右可相納候也

郡役所印

年月日

第二雛形

明治何年分

納期何年何月何

高金百圓ノ

金九拾圓

一金拾圓

何月何日

右現金何月何

年月日



郡役所印

科目)第何期又、前(後)半年分

何郡何町

納人

何

誰

何月何日納

不納

印役

郡長官印

明治何年分何租(小科目)第何期又、前(後)半年分

納期何年何月何日限

何郡

一金百圓

何町分

金九拾圓

何月何日納

内

金拾圓

不納

右現金何月何日何所國庫金取扱所へ相預ヶ上納候也

年月日

何郡何町

何

誰

第二雛形

明治何年分何租(小科目)第何期又、前(後)半年分

納期何年何月何日限

何月何日納濟

高金百圓ノ内

何郡何町

金九拾圓

何ノ誰分

一金拾圓

何月何日不納處分濟追徴ノ分

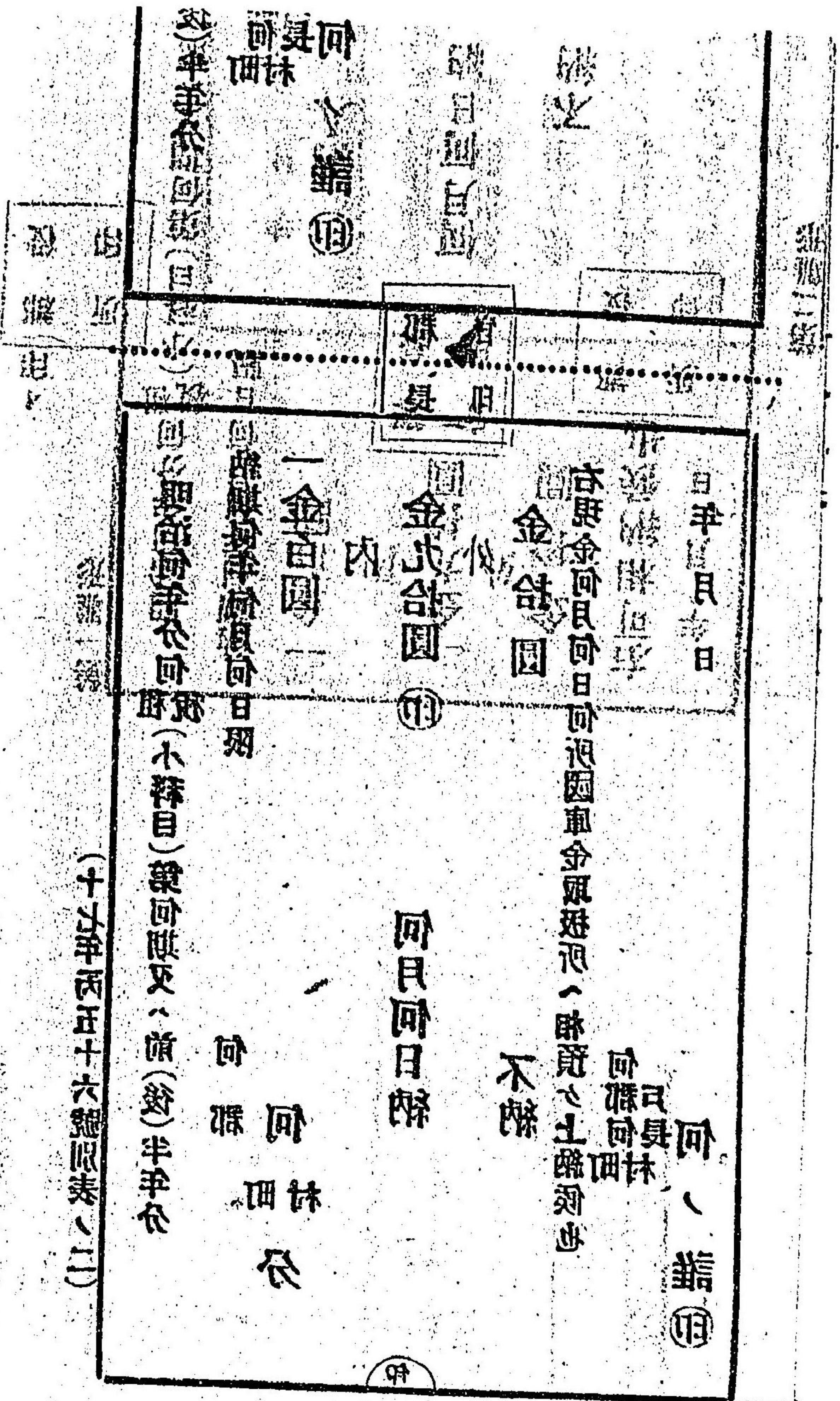
右現金何月何日何所國庫金取扱所へ相預ヶ上納候也

年月日

何郡長何ノ誰

(十七年丙五十六號別表ノ二)





茶業組合準則

- 第一條 茶業ニ従事スル者ハ製造者ト販賣者トヲ間ハス郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ
- 但シ自用茶ノミヲ製スルモノハ此限リニアラス
- 第二條 組合ノ名稱ハ何府何郡區何町村茶業組合ト稱スヘシ
- 第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ
  - 第一項 他物若クハ惡品ヲ混淆シ或ハ着色スル等總テ不正ノ茶ハ製造販賣セサル事
  - 第二項 乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事
  - 第三項 製茶荷造ノ上ハ必組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名ヲ記スル事
  - 第四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ
  - 第五條 組合員ハ必ス其組合ノ證票ヲ携帯スヘシ

十七年丙號

〇五十七



但證書ニハ府縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第七條 各府縣下便宜ノ地ニ取締所一箇所ヲ設ケテ各組合ヲ統轄スヘシ

第八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

第九條 組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 全國中便宜ノ地ニ中央茶業組合本部ヲ設ケ各地茶業組合取締所ノ氣脈ヲ聯

通スヘシ(十七年丙百六號ヲ以テ十一、十二、十三)

第十一條 條ヲ追加シ原十條ヲ十四條ニ繼下ク中央茶業組合本部ノ規約ハ農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 中央茶業組合本部ノ役員ハ各地茶業組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スヘシ

第十三條 中央茶業組合本部ノ費用ハ各地茶業組合取締所役員ノ協議ヲ以テ之ヲ定

ムヘシ

第十四條 右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルヲ得

○丙第二十八號 十七年三月廿一日

南村元秀編輯明治十七年中要日記及福井宗七編輯農家日課一覽發賣差止

○丙第二十九號 十七年三月廿四日 郡役所 戶長役場

來明治十八年四月一日ヨリ六月廿日マテ東京上野公園ニ於テ繭絲織物陶漆器共進會開設ノ旨昨明治十六年七月第二十七號及該會規則同年十一月第三十五號ヲ以テ布達相成候

ニ付テハ出品物所轄郡役所ヨリ會場マテノ往返運搬費及飾附人夫等ノ費用ハ總テ勸業費ヨリ支出縣廳於テ取扱條條縣下該業者中右規則ニ適當ノモノハ願書差出方等別

記ニ照準出品致スヘシ尤本會ハ有益ニシテ實用ニ適スル物品ノ改進増殖ヲ計リ内需用ヲ足シテ外輸出ヲ盛ニスルノ旨趣ニ有之候ニ付務メテ觀美虛飾ヲ去リ出品候樣可致

旨該業者へ無漏可告知此旨相達候事

但出品主出京ノ旅費ハ固ヨリ自辨ニハ候得共可成本人出京各地ノ出品ヲ實際ニ比較シ將來目的ヲ立ツルノ裨益ヲ得セシムル樣厚可致注意候事

十七年丙號

〇五十八



一出品主ハ其品名及數量容積等ヲ詳記シタル出品願書及出品解説ニ通テ製シ戸長ノ  
 與書ヲ受テ所轄郡役所ヘ差出シ郡役所於テハ其誤謬ナキヲ調査シ部内取纏ヲ兩様  
 トモ一類毎ニ調製シ出品願書ハ本年十一月限リ出品解説ハ來明治十八年一月廿日  
 迄ニ縣廳ヘ差出スヘシ  
 一出品ハ其品名及數量出品人ノ住所姓名ヲ表記シ來明治十八年一月十日迄ニ所轄郡  
 役所ヘ差出シ郡役所ハ取纏ノ上速ニ縣廳ヘ差出スヘシ  
 一出品同種ノ物品ニシテ從前内外博覽會或ハ共進會等ニ於テ賞牌褒狀等ヲ得タル者  
 ハ其摸形又ハ寫圖ヲ出品ト俱ニ所轄郡役所ヘ差出シ郡役所ハ之ヲ縣廳ヘ差出スヘ  
 シ  
 一出品物ノ品名及代價數量賣品非賣品等ヲ別紙ニ記載シ出品ト共ニ所轄郡役所ヘ差  
 出シ郡役所ハ一類毎ニ區別シ速ニ縣廳ヘ差出スヘシ  
 ○丙第三十號 十七年二月廿五日

長野縣下徴兵名簿記載ノ者脱籍逃亡ニ付所在取糺届出サシム

○丙第三十一號 十七年三月廿八日

富山縣下徴兵名簿記載ノ者脱籍逃亡ニ付所在取糺届出サシム

○丙第三十二號 十七年三月二十九日 郡役所 戸長役場

國民軍二十歳ヨリ 人員表入用之儀有之候條各町村戸長ハ毎年一月一日ノ現員取調  
 年齢ヲ區別シ其年三月十五日迄ニ郡役所ヘ差出郡役所ニ於テハ年齢ヲ區別シ一郡毎  
 ニ製表ノ上同月三十日迄ニ縣廳ヘ可差出尤本年ノ儀ハ日限經過致シ居候ニ付戸長ヨ  
 リハ四月三十日迄郡役所ヨリハ五月十五日迄ニ差出スヘシ此旨相達候事 (十七年丙  
 三十四號  
 除シ未項ヲ加フ)

但本文年齢ノ内左ニ記載スルモノハ算入セサル儀ト心得ヘシ

一徴兵相當之節舊徴兵令第二十七條第一項第二項ニ當リ兵役ヲ除セラレタル者

一徴兵相當之節軍醫檢査ノ上不合格トナリタル者







身代限 同 アル片ハ其義務ヲ終ヘタルヤ否ヲ記スヘシ

年月日

右 何 某實印

右之通相違無之ニ付與印候也

年月日

何府何郡長 何某印  
又ハ(何府何郡何村戸長某印)

○丙第三十七號 十七年四月十八日 戸長役場 學務委員

本縣明治十五年 月 丙第八十一號達町村立私立學校(小學校)ニ就キ開申スヘキ事項中  
左ノ通追加候條此旨相達候事

但從來設置ノモノモ此際開申スヘシ

○十五年丙八十一號ニ第  
照五卷九類十六ニアリ

一經費定額

金何程内金何程學校長教員給料金何程書籍器械費ノ類

一學校長教員ノ履歷

族籍姓名年齢及修學官仕職業賞罰等ニ關スル經歷ノ類但卒業證書免許狀ヲ有スル  
者ハ其寫

一學校設立者ノ履歷 私立學校  
ニ限ル

前項ニ準ス

○丙第三十八號 十七年四月廿八日 郡役所 戸長役場

本年一 本縣丙第十一號達中改正

○丙第三十九號 十七年四月三十日

福非縣下徴兵名簿記載ノ者脱籍逃亡ニ付所在取糺届出サシム

○丙第四十號 十七年五月七日 郡役所 戸長役場

明治十一年 月 乙第六十九號同十四年 月 乙第四十號同年 月 丙第九十一號同十五

十七年丙號

〇六一



年四乙第十三號同年四月丙第三十二號同十六年六月乙第三十五號達自今廢止候條此旨相達候事

但十一年乙第六十九號達中著名勳產表ハ從前ノ通可相心得候事

○丙第四十一號 十七年五月七日  
同十一年乙六十九號ハ第七卷十二類十六、十四年乙四十號ハ同廿八、同年丙九十一  
縣號ハ同廿四、十五年乙二十三號ハ同三十、同年丙三十二號ハ同廿九ニアリ

諸稅監查員提携印章紛失

○丙第四十二號 十七年五月八日 郡役所 戶長役場 學務委員

本縣小學校教員免許狀授與規則中別紙之通追加候條此旨相達候事

關教員免許狀授與規則ハ第  
五卷九類三十三ニアリ

岐阜縣小學校教員免許狀授與規則第十條ハ左ノ一項ヲ加フ

本縣管内ニ於テ滿三十一年以上小學校初等科若クハ中等科若クハ高等科ノ教授ニ從  
事シ每等科ノ生徒ヲ卒業セシメタル實跡アル者ニシテ學力優等授業熟練品行端正

ナル者ニハ試験ヲ須ヒス特別ヲ以テ相當ノ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○丙第四十三號 十七年五月十日 郡役所 戶長役場 學務委員

本縣小學校教員講習所規則別紙之通相定候條此旨相達候事

岐阜縣教員講習所規則

第一條 講習所ハ管内小學校教員ヲ改良シ普通教育ノ擴張ヲ圖ラシメカ爲メ本縣華陽學  
校内ニ設ケルモノトス

第二條 講習員ハ管内各郡役所部内ヨリ一名乃至三名ヲ募集ス

第三條 講習所ハ毎年一次之ヲ開キ其期日ハ凡ソ二十週日以内トス

但其時期ハ別ニ通知シ或ハ報告ス可シ

第四條 授業時間ハ一週二十八時間トシ其學科ハ師範學科中ノ各學科トス

但課業時間ハ講習所ノ定ムル所ニ據ル

第五條 講習員ハ一郡役所部内教員學務委員ノ公選ヲ以テ教員中ヨリ六名ヲ舉ケ其



等級姓名履歷ヲ郡役所ヲ經テ本縣ヘ差出ス可シ本縣ハ其履歷ヲ調査シ更ニ一名乃至三名ヲ召集スルモノトス

第六條 前條ノ選舉人若シ召集ヲ辭スル片ハ縣令ハ更ニ講習員ヲ選拔スルコトアル可シ

第七條 講習員講習中ハ總テ華陽學校規則ヲ遵守スヘシ

第八條 講習員講習中ハ學資トシテ一ヶ月金四圓ヲ給シ其往復ハ一日十里詰金壹圓貳拾錢ノ旅費ヲ給ス

但十里以上ノ端里數ハ一日ニ算シ六里未滿ハ旅費ヲ給セス

第九條 講習員講習歸校ノ上ハ少クトモ一年間ハ必ス其校其在勤ノ學區内若クハ其郡役所部内ニ在勤ス可シ(十七年丙五十三號ヲ以九條、十條、十一條、十四條中改正)

第十條 講習員講習中ハ其在勤校其在勤ノ學區内若クハ其郡役所部内ヨリ毎月々給三分ノ一ヲ支給ス可シ

第十一條 講習員ノ學資及旅費ハ各郡役所部内ノ協議ニヨリ適宜賦課支出スルモノトス

但講習員ヲ出セル校下講習員講習中ノ支給費ヲ學區ヨリ出シタルトキハ其學區内ハ本文ノ賦課ヲ免スルモノトス

第十二條 講習員自己所有ノ卒業證書ニシテ其有効年限ノ既ニ滿チタルモノハ講習濟ノ上更ニ本縣華陽學校規則中ニ掲クル第五號書式ノ考績卒業證書ヲ與フルコトアル可シ

第十三條 講習員講習畢リタル片ハ試験ノ上別記ノ證書ヲ授與ス

第十四條 講習員講習歸校ノ上ハ郡長ト協議シ其郡役所部内ノ教員及ヒ補助員ヲ便宜集合シ講習シ得タル所ノ學科ヲ傳習スルノ責任アルモノトス

別記

用紙鳥ノ子紙



校印

證書

岐阜縣何等訓導姓名

右ハ講習ノ爲メ當校ヘ入學シ成規ノ試業ヲ完了セシテ以テ此證書ヲ付與ス

明治年月日

岐阜縣華陽學校長姓名印

番號

○丙第四十四號 十七年五月十日 郡役所 戶長役場

根村熊五郎編輯人身造化論出版發賣差止

○丙第四十五號 十七年五月十七日 郡役所 戶長役場 衛生委員

從來醫師藥舖兼業之儀ハ不開屆候處自今本年(四月)本縣甲第三十號布達藥舖藥種商規則ニヨリ願出ルニ於テハ試驗之上藥舖開業許可スヘシ爲心得此旨相達候事

○丙第四拾六號 十七年五月十七日 郡役所 戶長役場 衛生委員

今般左之通醫師組合準則相設候ニ付右ニ基キ其組合規約相立候様各開業醫へ無洩告知可致此旨相達候事

開業醫師組合準則

第一條 本則ハ開業醫師相互規約ヲ定メ其業務ニ關スル法律規則ヲ遵守シ併セテ左

ノ目的ヲ達セシメノカ爲メ設ケレモノトス

一 醫風ヲ改良スル事

一 醫術ヲ研究スル事

一 地方病ヲ探究スル事

一 傳染病ヲ預防スル事

十七年丙號

○六十四



一 公衆衛生ヲ保護スル事

第二條 前條實施ノ方法ヲ議スルカ爲メ少クモ一年二回以上集會ヲナスヘシ

第三條 組合區畫ハ地理ノ便否ト醫員ノ多寡ニヨリ一郡役所部内ヲ一部若クハ數部ニ區別スヘシ

第四條 管内ニ於テ開業スル醫師ハ都テ此組合ニ入ルニキモノトス

但縣立醫學校在職ノ者ハ本文ノ限リニ非ラス

第五條 組合規約ハ郡役所ヲ經縣令ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 毎組合中會長幹事ヲ公撰シ一切ノ事務ヲ整理セシムヘシ

第七條 第二條ノ集會ニ於テ議決セシ條件ハ其要領ヲ記シ郡役所ヲ經縣令ニ開申スヘシ

但縣令ニ於テ不適當ト認ムルモノアル片ハ改訂セシムルコトアルヘシ

第八條 會長幹事及組合醫師ノ氏名集會ノ場所開會ノ期日ハ預メ郡役所ヲ經テ縣廳

へ届出ヘシ

第九條 集會中掛官吏若クハ縣立醫學校在職ノ醫師ヲシテ臨監セシムルコトアルヘシ

第十條 衛生上ノ利害ニ付意見アル片ハ集會ノ議決ヲ以縣令又ハ郡長ニ建議スルコトヲ得

第十一條 組合集會等ニ係ル諸費ハ組合醫師ニ於テ協同支辨スヘシ

○丙第四拾七號 十七年五月廿一日 郡役所 戸長役場

道路開設修繕等ノ爲メ電信ノ線路ヲ變換シ又ハ電信柱ヲ移轉セシコトヲ請求スル時ハ其向ニ於テ實地ヲ調査シ不得止コ出ルモノハ多少ヲ論セス轉換可取計候得共其費用ハ都テ請求者ニ於テ支辨可致儀ト可相心得其筋ヨリ被達候條爲心得此旨相達候事但家屋構造又ハ店頭商業ノ支障等ニテ電信柱ノ移轉ヲ請求スル分ハ此限ニアラス

○丙第四十八號 十七年五月三十一日 郡役所 戸長役場

廣瀬治三郎外三十四名出版略曆出版發賣差止



○丙第四十九號 十七年六月十三日 郡役所 戶長役場

大藏省舊租稅局員諸稅監査ノ爲メ巡回ノ節提携スヘキ印章ノ儀參照ノ爲メ致配付置候處自今廢止相成候條右印章本月三十日限返納可致此旨相達候事

但戶長役場ハ其所轄郡役所へ差出シ郡役所於テ取纏メ當廳へ差出スヘシ

○丙第五十號 十七年六月十三日 郡役所 戶長役場 學務委員

小學校幹事々務章程起草心得別紙之通相定候條右ニ照準條目取調郡役所ヲ經テ認可願出此旨相達候事

小學校幹事々務章程起草心得

一 小學校幹事ハ學務委員ヲ助ケテ小學校學務ノ事ヲ幹理シ教育ノ普及上進ヲ圖ル可キ事

一 小學校幹事ハ日々上校シテ學校ノ事務及ヒ管理ヲ爲ス事

一 校下ノ學齡子女ヲ就學セシムル事

一 校下ノ學齡子女ノ貧困ナル者ヲ就學セシムル方法ヲ設クル事

一 校下ノ學齡子女ノ不就學者ノ事故理由ヲ監査スル事

一 校下ノ學齡子女ノ入學退學ヲ許否スル事

一 就學生徒ノ品行學業ヲ監督シ及其賞罰ヲ爲ス事

一 就學生徒ノ欠席届ヲ監査スル事

一 就學生徒ノ試驗ニ立會シ其學業ヲ監督スル事

一 就學生徒ノ健康及疾病ニ注意スル事

一 就學生徒ノ傳染病ニ罹リタルモノヲ一時休業セシムル事

一 學校ノ管鑰ヲ掌ル事

一 學校ノ通風採光ノ良否及教場ノ便否ニ注意スル事

一 學校ノ清潔ニ注意スル事

一 學校ノ臨時休業ヲ校下ニ報告スル事

十七年丙號

〇六十六



- 一 學校ノ圖書帳簿類及諸器械ヲ管理シ或ハ保存スル事
- 一 教員及補助員ノ出席簿ヲ管理スル事
- 一 教員及補助員ノ能否勤惰ヲ監察スル事
- 一 教員及補助員ノ欠席届ヲ學務委員ニ報告スル事
- 一 小使ヲ雇入雇止及其其否勤惰ヲ監督スル事
- 一 學區費ニ屬スル一校限リノ經費豫算ヲ立ツル事
- 一 學區費ニ屬セサル一校限リノ經費ヲ出納スル事
- 一 學區費ニ屬スル經費ノ豫算金額内ニ於テ一校限リノ筆紙墨并薪炭油及書籍器械ヲ購求スル事
- 一 學區費ニ屬スル豫算金額内ニ於テ校舍及器械等ノ修繕ヲ爲ス事
- 一 學區費ニ屬スル豫算金額外ニ要スル一校限リノ總テノ買入物并修繕等ハ其要スル所以ノ理由ト金額トヲ詳ニシ之ヲ學務委員ニ謀ル事

- 一 總テノ仕拂ヲ爲シタル片ハ其請取人ノ證書ヲ保存スル事
- 一 毎月末其月ノ金錢出納ヲ精算シ之ヲ學務委員ニ報告スル事
- 一 金穀物品ヲ寄附スルモノアレハ其員數姓名等ヲ學務委員ニ報告スル事
- 一 學事表簿乙ノ其校ニ屬スルモノヲ取調ヘ期日内ニ學務委員ニ差出ス事
- 一 學務委員ノ通知シタル一校限リノ總テノ取調ヲ爲ス事
- 丙第五拾壹號 十七年六月十四日 郡役所 戶長役場  
大森考出版略曆出版發賣差止
- 丙第五拾貳號 十七年六月十九日 郡役所 戶長役場 學務委員  
本縣選舉師範生徒規約別紙之通相定候條此旨相達候事
- 岐阜縣選舉師範生徒規約
- 第一條 本縣選舉師範生徒ハ(官公)費ヲ給ヒ卒業ノ後七ケ年間本縣公立學校教員ニ從事スヘシ



第二條 公費ノ本縣選舉師範生徒學資金ハ一人一ヶ月六圓ヲ貸與スヘシ  
但在學中官費生トナルモノハ本縣ヨリ學資金ヲ貸與セサルモノトス

第三條 公費本縣選舉師範生徒學資金ハ卒業ノ後月賦ヲ以テ返納セシム在學中不都合ノ廉アリテ退學ヲ命セラル、カ又ハ奉務年限内ニ免職申付ラレタル場合ニ於テハ其給與シタル學資金ノ全額ヲ三週間以内ニ還納セシム

但疾病ニ罹リ退學セルカ又ハ死去スル者ハ還納ニ及ハス

第四條 本縣選舉師範生徒入學志願ノ者ハ第一號書式願書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添へ郡役所ヲ經由縣廳へ願出ツヘシ尤入學許可之上ハ第三號書式規約書并第四號書式證書ヲ差出スヘシ

第五條 東京師範學校へ往復ノ旅費滞在費ハ本縣小學校教員旅費給與規則ニ依リ支給ス

第六條 本縣選舉師範生徒ノ保証人ハ二人ヲ要ス内一人ハ父兄若クハ親戚一人ハ本

縣居住ノ者ニシテ相應ノ資力アル男戸主タルヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙)

願書

何府縣華士族平民離子弟或ハ戸主

姓名

何年何月

右之者東京師範學校へ入學(中學)師範學科修業志願ニ候間履歷書相添此段奉願候也

何府縣何國何郡何町村何番地

居住或ハ寄留

年月日

保証人姓名印

全上姓名印

縣令宛

十七年丙號

〇六十八



右ノ者從來ノ品行不都合ノ麻無之候依テ與印候也

年月日

何府縣何國何郡何町村何學區

學務委員 姓 名 印

第二號書式 (用紙美濃紙)

履歷書

學業

一何年何月官公私立何學校ニ入り何某ニ就キ何學科何年間修業何等級卒業用書何々等

但卒業證書ヲ有スル者ハ其寫ヲ添フヘシ

職業

一父兄若クハ本人何業ヲ營ミ何職ニ就ク等

賞罰

一何年何月何所ニ於テ何事ニ付賞ヲ受ケ若クハ罰ヲ被ル等

右之通相違無之候也

何國何郡何町村何番地

何府縣華士族平民誰子弟或ハ戶主

年月日

生 所 姓 名 印

何年何月

第三號書式 (用紙美濃紙)

誓約書

今般東京師範學校入學御許可相成候ニ付テハ卒業ノ上ハ七箇年間必御管内ノ教育ニ從事仕無謂解職等請願致間敷候右相誓候也

年月日

本人 姓 名 印

保証人 姓 名 印

全 上 姓 名 印

十七年丙號

〇六十九



縣令宛

第四號書式 (用紙證券界紙)

證書

私儀今般東京師範學校入學御許可相成候ニ付テハ在學中御貸與之學資金ハ卒業ノ後月賦ヲ以三圓五拾錢宛返納可致若退學被命候カ或ハ願ニ依リ退學候節ハ一時ニ償還可致候依テ證書如件

何國何郡何町村何番地

何府縣華士族平民誰子弟或ハ戶主

本人 姓名 名印

年月日

何年何月

前書之趣相違無之候ニ付償還金等相滞候節ハ拙者共速ニ辨償可致候也

何國何郡何町村何番地

年月日

何府縣華士族平民

保證人 姓名 名印

同 姓名 名印

縣令宛

○丙第五十三號 十七年六月廿一日 郡役所 戶長役場 學務委員

本縣本年丙第四十三號達小學校教員講習所規則中改正

○丙第五十四號 十七年六月廿七日 郡役所 戶長役場

徵兵ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰ヲ受テ右處分中ハ徵集ヲ猶豫シ又其處分中常備年期ヲ經過スル者ハ年齡滿卅二歲迄第二豫備徵員トスヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○丙第五十五號 十七年七月十日 郡役所 戶長役場

戶長役場ニ屬スル管内約束郵便費之儀戶長職務取扱諸費中減額交付方客  
第四十九號ヲ以テ相達置候處本年第十三號布告地方稅規則第三條第十五項改正相成



候ニ付テハ當十七年度中ノ費用左ノ區別ニ依リ來ル三十一日限り郡役所へ納メ郡役所ニ於テハ各町村納額仕譯書ヲ添へ本縣へ送付スヘシ此旨相達候事

目	安	納ムヘキ金額
役場備ノ者給料年額五圓未滿ヲ下附スルノ町村		金五拾錢
同上五圓以上未滿之分		金壹圓
同上拾圓以上未滿之分		金貳圓
同上廿五圓以上未滿之分		金三圓
同上五拾圓以上之分		金五圓

○丙第五十六號 十七年七月十四日 郡役所 戶長役場  
 國稅金收納順序及國稅金收納順序附錄別紙之通相定候條此旨相達候事  
 但從前ノ國稅金領收順序及國稅金領收順序附錄等右ニ抵觸スル諸達ハ廢止ス

國稅金收納順序

第一條 國稅金ハ郡長於テ每納期其納額ヲ各町村納額元帳ニ登記シ納期限地租ハ納  
 算 十五日以前ニ於テ左記第壹號ノ如ク甲乙接續セル納稅切符ヲ製シ其納金額及  
 ヒ納期限ヲ該切符へ記入シ第一號甲納稅切符へ一印ノ如ク郡役所ノ印ヲ捺シ且元  
 帳金額ト割印シ之ヲ戶長ニ達スルモノトス

第二條 戶長ハ郡長ヨリ納稅切符ヲ得レハ其町村一人別帳ニ據リ租稅金ヲ徵收シ第  
 一號乙納稅切符へ二印ノ如ク調印シ之ニ徵收セル現金ヲ添へ國庫金取扱所へ預ケ  
 入ル、モノトス

但納期限前ニ集リタル金額ハ第二號切符ヲ製シ何ケ度ニモ國庫金取扱所へ相預  
 ケ預リノ證印ヲ得其郡度郡役所へ上納シ納期限ニ至リ第一號切符へ第三號ノ如  
 ク記載シ本文ノ順序ヲ爲スヘシ

第三條 國庫金取扱所ハ第一號乙納稅切符へ三印及四印ノ証印割印ヲナシ戶長へ渡



スヘキニ付戸長ハ甲納稅切符ヘ五印ノ如ク調印シ郡長ヘ上納スルモノトス

第四條 郡長ハ戸長ヨリ上納セル甲乙納稅切符金額ト納稅元帳トヲ照査シ皆納又ハ内納ノ金額ヲ元帳ヘ記入シ而シテ第一號甲納稅切符ヘ六印ノ如ク捺印シタル後甲乙ヲ分截シ乙ハ郡役所ニ留メ甲ハ戸長ニ付與シ以テ租稅皆納ノ証トスルモノトス

但第二號納稅切符ヲ以テ納ムルモノハ其時々郡長名印ノ領收証書ヲ付與スヘシ  
第五條 地券證印稅新規營業稅ノ類及ヒ其時々收入ノ諸稅等ニシテ甲乙接續切符ヲ用ヒ難キモノハ戸長ニ於テ一稅毎ニ第二號ノ如ク納稅切符ヲ製シ國庫金取扱所ヘ預ケ入レ其時々郡長ヘ上納スルモノトス

但本人ヨリ直ニ郡役所ヘ上納スルモノハ第貳號納稅切符ヲ用ヒ本人ノ姓名ヲ記シ捺印スヘシ

第六條 郡長ハ第一條納稅切符ヲ戸長ヘ達シタルトキハ第四號ノ如ク納額調書ヲ製シ收稅長ヘ報告スヘシ尤其納額ニ増減ヲ生スルトキハ其時々之ヲ追報スル者トス

但縣廳ヨリ納額ヲ達スルモノハ報告ノ限ニアラス

第七條 郡長ハ一旬日間領収セル租稅金ヲ取纏メ三日以内ニ第五號ノ如ク上納證書ヲ製シ之ヲ收稅長ニ送付スルモノトス

第八條 收稅長ハ郡長ヨリ上納證書ヲ得タル日ヨリ三日以内ニ第六號ノ如ク領收證書ヲ製シ之ヲ郡長ヘ送付スルモノトス

第九條 郡長ハ各租稅皆濟期限後三ヶ月以内ニ於テ第七號ノ如ク皆濟報告書ヲ製シテ收稅長ニ差出シ之カ決算ヲ爲スモノトス

第貳號

用紙ハ適宜寸法 豎四寸五分 横三寸三分

明治何年分

何租(小科目)第何期又ハ前(後)半期



第三號  
(乙納稅切符)

一金何程 印

何郡  
何町分

又ハ  
何郡何村  
何之誰分

右現金何月何日國庫金取扱所へ相預ケ上納候也

何郡何村  
戸長  
何之誰 印

年月日

印  
國庫金取扱所預リノ証印

表面

明治何年度何租  
納期何年何月何日限

一令百圓

何郡  
何町分

内金九拾五圓 印  
裏面之通納濟  
内金五圓 何月何日納 印

右現金何月何日何地國庫金取扱所へ相預ケ上納候也

何郡何村  
戸長  
何之誰 印

年月日

印  
國庫金取扱所預リノ証印



裏面

金五拾圓

何月何日納

金貳拾圓

何月何日納

金貳拾五圓

何月何日納

小以金九拾五圓

第四號 (用紙美濃梓野紙)

明治何年度

納額調書

(大科目限リ別紙ニ調製スヘシ)

一金何程

何税(小科目)第何期

一金何程

何税(前)同(第何期)

一金何程

何税(前同)前(後)半期

合金何程

右納額申報候也

年月日

郡長姓名印

收税長宛

(増減追報モ此式ニ準ス)

第五號 (用紙美濃梓野紙)

(小科目限リ別紙ニ調製スヘシ)

証

第何號

十七年丙號

〇七十四



一金何程

但明治何年度何租第何期或ハ前(後)半期稼續(新規)又ハ時々收入  
右上納候也

年月日

收稅長宛

郡長姓名印

第六號

花紋

第何號(縣廳番號)

第何號(郡役所上納証番號)

一金何程印

但明治何年度何租(小科目)第何期或ハ前(後)半期稼  
續(新規)又ハ時々收入

右領收候也

年月日

郡長宛

收稅長姓名印

第七號 (用紙美濃梓野紙)

明治何年度何租皆濟報告書

高金何程

一金何程

內

何租(大科目)

金何程

何租(小科目)

金何程

何租(小科目)

以下準之

十七年丙號

〇七十五



外金何程

内

金何程

内 金何程

金何程

内 金何程

金何程

官損及勘定除却之分

何々(事故詳細記載)ニ付官損

何租(小科目)

何租(小科目)

何々(事故詳細記載)ニ付勘定除却

何租(小科目)

何租(小科目)

右者何郡明治何年度何租稅皆濟書面之通候也

年月日

收稅長宛

郡長姓名印

國稅金收納順序附錄

一納稅期限ニ至リ若シ租稅金皆納シ能ハサル者アルハ第壹號納稅切符第一雛形ノ如ク戸長ニ於テ其納金額ノ傍ヘ現ニ徵收シタル金額ヲ内書ニシ不納金額ヲ外書ニシ成規ノ手續ヲ經テ郡役所ヘ上納シ且其不納者ノ住所姓名事由ヲ詳記シテ郡長ニ報告スルモノトス

一郡長ハ前條ノ報告ヲ得テ先ツ其不納金額ヲ第貳號ノ如ク不納額帳ニ登記シ之ト第一雛形ノ甲切符ノ右側ニ「イ」印ノ如ク割印シ而シ其徵收シタル金額ヲ納額元帳ニ記入シ其納稅切符ノ納金額ニ對シ領收ノ證印ヲ捺シ以下成規ノ手續ヲナス者トス  
一郡長ハ租稅金官損若シクハ勘定除却ニ係ル分第三號ノ如ク大科目限リ調製シ該租稅納期限後三十五日以内ニ時々收入ノ分ハ其時々收稅長ニ報告スルモノトス  
但報告後ニ徵收スルヲアレハ其時々之ヲ追報スヘシ  
一不納者ノ處分ヲ爲レ徵收シタル租稅金ハ郡長ニ於テ第二雛形ノ如ク切符ヲ製シ其金額ヲ國庫金取扱所ヘ相預ク預リノ證印ヲ受ケ以下成規ノ手續ヲ以テ上納スヘシ



此場合ニ於テハ徵收シタル金額ヲ戸長ニ通報スルモノトス

第二號

明治何年

何税不納額帳

何 郡

此帳簿ハ各租稅納期ヲ過キ不納金額ヲ掲ケルモノナリ

公賣處分等ニテ不納金額ヲ徵收セントキハ金員ノ傍ヘ何月何日處分濟收入ト記入ス

若シ處分濟ノ上不納金額ニ不足ヲ生セシ片ハ内書ニ徵收ノ員額ヲ掲ケ其下ヘ何月何

日處分濟收入ト記入シ差引不足ノ金員ヲ傍ヘ掲ケ其姓名事由等ヲ但書ニ詳記ス

何 郡

納稅切符イ印ト割印

何 町

一金何程

何 之 誰

但何々(事由記載)

十七年 丙 號

〇七十七



何月何日處分中(或ハ濟)收入  
第三號 (用紙美濃梓紙)

明治何年度分

一金何程

何租稅(歲入小)第何期

是ハ何々(事故詳細記載)ニ付成規ノ通り處分候處代價不納金額ニ充ツヌ又ハ買受  
望入ナク又ハ公賣代價不相當ニ付該財產官沒或ハ官損可相成分

一金何程

何租稅(前全)前后半期又ハ  
時々收入分

是ハ何々(前同)ニ付成規ノ通處分候處賦課ノ財產無之官損可相成分

一金何程

何租稅(前全)前后半期又ハ  
時々收入分

是ハ何々(前同)ニ付一旦勘定除却可相成分

令金何程

右之通候也

年月日

收稅長宛

郡長姓名印

○丙第五拾七號 十七年七月十五日 郡役所 戶長役場  
客歲十二月廿八日附 郡役所ハ乙第八十八號ヲ以相達置候公用郵便物員數及量目  
記載方ノ義驛遞局ヨリ報告表雛形回送相成候上尙可相達候得共差向當縣ニ於テ本年  
一月ヨリ六月迄ノ分調査可致儀有之候條別紙雛形ニ照準右六ヶ月分報告表ヲ製シ本  
月三十一日迄ニ可差出此旨相達候事  
但本月以後約束郵便物員數量目ヲ記載致置候儀ハ從前ノ通可相心得候事  
雛形(用紙半紙)

明治何年何月中約束郵便物及量目報告表

種	類	個	數	種	類	個	量
第一	種	何	個	何	文	目	目
				十七年丙號			
				〇七十八			



第 三 種	何	個	何	文	目
第 四 種	何	個	何	文	目

右ハ何月中當役所(場)ヨリ差出候約束郵便物員數及量目合計表面之通有之候也  
年 月 日

何 郡 長 某 印

又ハ何國何郡

何町村 戶長 某 印

縣 令 宛

○丙第五十八號 十七年七月十八日 郡役所 戶長役場 學務委員  
本縣本年丙第五號ヲ以テ學區內經濟共通之儀相達候付テハ未タ本校分校ノ組織ニ從  
ハス數校ヲ設置スル學區內ノ町村立小學校々長教員等ニ今後其學區內各町村立小學  
校ノ授業彼此流用擔當爲致候儀ハ不苦候條此旨相達候事  
○丙第五十九號 十七年七月三十一日 郡役所 戶長役場

兒玉又七編輯道化不具疏出版發賣差止

○丙第六十號 十七年八月二日 郡役所 戶長役場

町村會ニ於テ議定スヘキ費目ハ戶長役場費會議土木費教育費衛生費救助費災害預防  
費警備費勸業費トシ其徵收釋目ハ地價割反別割營業割戶別割トス又各町村ノ情況ニ  
由リ現品若シハ夫役ヲ以テ徵收スルモ妨ナシ但費目ノ增加ヲ要スルトキハ指揮ヲ請  
フヘシ此旨相達候事

○丙第六十一號 十七年八月十一日 郡役所 戶長役場 學務委員

本縣小學校教科書表中別表之通追加候條此旨相達候事

岐阜縣小學校教科書表

小學初等科ノ部

讀書科

圖書名	卷册記號	出版年月	著者氏名	出版者氏名住所
		十七年丙號		
				〇七十九



短句連語

一卷 圖十葉添

明治十七年 月

太田謹 著

東京日本橋區本町三丁目十七番地 原亮三郎

○丙第六十二號 十七年八月十五日 郡役所 戶長役場

後備軍司令部名稱ノ儀自今鎮臺或ハ營所ノ名稱ニ從ヒ其鎮臺下ニ在ル者其鎮臺後備軍司令部某營所ノ地ニ在ル者其營所後備軍司令部ト改正相成候條此旨相達候事

但後備軍司令部名稱改正候ニ付テハ後備軍司令部官員職名ノ儀モ隨テ換稱相成候儀ト心得ヘシ

○丙第六十三號 十七年八月十五日 郡役所 戶長役場

町村費田納決算報告書之儀本年本縣甲第七十三號布達町村會規則第二條ニヨリ町村會ニ報告シタル後ハ直ニ郡長ヘ報告スヘシ但郡長ノ管理ニ係ルモノハ本縣ヘ申告可致此旨相達候事

○丙第六十四號 十七年八月廿三日 郡役所 戶長役場

本年一月本縣丙第二號達相廢ス此旨相達候事

○丙第六十五號 十七年八月廿八日 郡役所 戶長役場

工業通信手續別冊之通相定候條右ニ照準取調期節ヲ誤ラサル様本年分ヨリ通信可致此旨相達候事

工業通信事項

一工業通信事項ヲ定ムルノ左ノ如シ

第一項 工場生絲製茶製

糖ヲ除ク

職工男女ヲ拾人以上ヲ使役スル工場ハ附錄第一號ヨリ第三號マテニ倣ヒ其年一ケ年分ヲ戶長役場ニ於テ毎年調査シ次年一月中所轄郡役所ニ報道シ郡役所於テ

ハ一郡限リノ合計ヲ製シ翌二月中ニ本縣ヘ報道スヘシ

但本表ニ登載スヘキ條項ナキ分ハ其旨報道スヘシ

第二項 品目

十七年丙號

〇八十



左ニ掲クル品類ハ附録第四號ヨリ第二十五號マテニ倣ヒ其年一ケ年分チ毎年調査シテ前同様報道スヘシ

但同斷

生絲ヲ除ク ○織物○編物○莫大小○疊表○紙類○金屬器○金玉器○陶器○磁器○瓦類○七寶器○漆器○角甲牙器○醸造物○油類○化學上製品○製革及草具○鐘詰○器械○船舶○車○活字版類

### 第三項 職工賃銀

職工ノ賃銀ハ附録第二十六號ニ倣ヒ其年一ケ年中ノ平均賃銀チ毎年調査シテ前同様報道スヘシ

### 第四項 職工人員

職工ノ人員ハ附録第二十七號ニ倣ヒ其年十二月三十一日ノ現在數チ毎年調査シテ前同様報道スヘシ

### 第五項 工業景況

著名ナル工業ノ盛衰興廢ノ景況並其原因ヲ調査シ附録第二十八號書式ニ倣ヒ毎年一月ヨリ六月迄チ上半期トシ其年七月中ニ七月ヨリ十二月迄チ下半期トシ次年一月中ニ戸長役場ヨリ所轄郡役所ニ報道シ郡役所於テハ翌月中ニ本縣ニ報道スヘシ

但調査ノ手續ハ左ノ通

- 一 厚見郡ノ縮緬羽栗中島郡ノ結城棧留土岐郡ノ陶器ノ如ク凡全郡ニ渉ル工業ニテ各町村同一ノ景況ナル時ハ戸長役場ノ通信チ取纏メ報道スルハ却テ手數ヲ要スルノミナラス事實チ知ルニ煩ハシ因テ郡役所於テ該通信書ニ就キ一郡ノ景況ヲ調査スヘシ
- 一 羽栗郡ノ絹織物武儀山縣郡ノ製紙ノ如ク全郡ニ關セサル分ハ何地村々何ケ村トシテ前條同様郡役所ニ於テ調査スヘシ



一 不破郡赤坂村ノ石細工武儀郡關村ノ打物大野郡高山町ノ陶漆器等ハ其村ヨリ報道セシモノヲ郡役所ニ於テ尙調査スヘシ

第六項 工夫負傷及機械毀損

水車及蒸氣機械等ノ爲メニ創傷ヲ被フルアリ其將來ノ警戒トナルヘキモノハ之ヲ被フリタル理由及創傷ノ狀又毀損破裂ノ如キハ尤モ將來ノ警戒ニ供スヘキモノナレハ其理由等ヲ臨時報道スヘシ

第七項 通信規則第八條各項中工事ニ關スルモノ

前ニ掲グル事項外ト雖モ工業者同業組合又ハ其協會等ノ興廢及工業ニ關シ緊要ナル事件ハ臨時報道スヘシ

製表心得

表中ノ品目記入スヘキモノ全クナキハ其欄内ニ線ヲ引ヘシ

第四號ヨリ第二十五號マテノ表中ニ掲グル數額ハ第一號ヨリ第三號マテノ工場表中

ノ數額ヲモ併セテ每郡區ノ總數額ヲ掲載スヘシ第一回年ノ表ニハ前年比較ノ欄ニ記入ヲ要セス但其欄ニハ第二回年ヨリ記入スヘシ

附錄表式

第壹號ノ一 蒸氣機關ヲ用フル工場

岐阜縣

總計	國	郡	町村	工場名稱	工業種類	資本金			準備金	機關	
						固定	運用	圓		數	馬力
						圓	圓	圓			

十七年丙號

〇八十二











岐阜縣 第貳號ノ一 水車ヲ用フル工場

比較	前年	總計	國		工場名稱	工業種類	資本金		水車	重ナル機械
			町	郡			固定	逕用		
							圓	圓	數	馬力名稱數

第貳號ノ二 水車ヲ用フル工場

比較	前年	總計	國		工場名稱	職	工	就業日時
			町	郡				
						男 女 合計	男 女 合計	一年間日數
						男 女 合計	男 女 合計	一日間時數

第貳號ノ三 水車ヲ用フル工場

國	町	郡	工場名稱	給料一月一人當役員	一日一人當職工賃銀	一ヶ年	原料價雜費	製造品	數量	價

十七年丙號

〇八十五







比較	前年	總計	岐阜縣	
			郡	町村
			製造家數	製造家數
			男	男
			工	工
			女	女
			工	工
			合計	合計
			製造家數	製造家數
			男	男
			工	工
			女	女
			工	工
			合計	合計

第四號ノ一 製絲織物業

比較	前年	總計	岐阜縣	
			郡	町村
			製造家數	製造家數
			男	男
			工	工
			女	女
			工	工
			合計	合計
			製造家數	製造家數
			男	男
			工	工
			女	女
			工	工
			合計	合計

家數ノ欄ニハ工場ヲ設ケテ營業スルト住家内ニ於テ從事スルトヲ論セス總テ一箇所ト做シテ記載スヘシ  
 男工女工ノ欄ニハ十五年以下ノ者モ合記スヘシ  
 以下之ニ做フ

第四號ノ二 製絲織物業

比較	前年	總計	岐阜縣	
			郡	町村
			製造家數	製造家數
			男	男
			工	工
			女	女
			工	工
			合計	合計
			製造家數	製造家數
			男	男
			工	工
			女	女
			工	工
			合計	合計

十七年丙號

〇八十七